

慧均撰『弥勒上下経遊意』の出現をめぐつて

—付、宝生院本の翻印—

伊 藤 隆 寿

- 一 はじめに
- 二 宝生院本の特徴
- 三 憲朝について
- 四 前稿の一部訂正
- 五 翻印の留意点

一 はじめに

『東域伝燈目録』等に記載されながら、散佚に帰したものと思われていた慧均の『弥勒上下経遊意』が、宝生院大須文庫に所蔵され伝えられていたことは、昭和五十一年度の印度学仏教学会で、公にしたところである。しかも、その内容が、從来吉蔵の撰述として、大日本続蔵經、大正新修大藏經に収録されている『弥勒経遊意』と同一であることが判明するに到つた。

書誌的観点から言えば、現在知られる写本において、撰名

を有するのは宝生院所蔵本（以下宝生院本と略称）のみであり、東大寺（鎌倉時代写）、高野山大（江戸末期写）、京大（明治末写）、大谷大（大正三年写）所蔵の写本には、すべて撰名は記されておらず、当然、本遊意は、慧均の著であると判定される。従つて、大日本続蔵經、大正新修大藏經に収録される際に、吉蔵撰とした理由根拠、その事情が明らかでない以上、現時点においては、從来の定説を改めなければならない状況にある。⁽¹⁾ 大正蔵經は、続蔵經を底本として、大谷大本との校合をしたものであり、撰者についても、続蔵經を踏襲したものである。続蔵經の直接の底本となつたものは、現在京大所蔵の筆写本であるが、これは、続蔵編纂の際に一、二の写本来をもとに、編纂員が筆写したもので、その原本が、いずれの所蔵にかかるのかは記されておらず不明である。しかし、現存写本との比較対照によると、高野山本を底本として、他の写本（東大寺本カ）を参照した形跡が認められる。筆

写の際、あるいは印刷の際の訂正、誤り等に依る多少の辞句の相違があるのみで、全く同じと言つてよい。しかも、高野山本は勿論のこと、続蔵の底本にも撰名は記されていない。にもかかわらず、從来、これを吉蔵撰と判定したのは、いかなる理由に依つたのであらうか。

そこで、遊意の内容に従つたものであろうとは、容易に推察されるところである。続蔵編纂の当時、三論宗に関する学界の認識は、吉蔵は別として、慧均に関してはあまり明確ではなかつたはずである。従つて、本書を吉蔵の撰と判することは、ごく自然であつたかも知れない。また宝生院本を除いて、東大寺本等、すべて書名を『弥勒經遊意』としており、それは目録に記載される吉蔵の遊意と一致しているのであるから、容易に結びついたとも考えられる。しかし、これは、あくまで筆者の推測に過ぎない。

慧均に関しては、吉蔵と同門なることや、その説を多少異にすること等は、古くより知られていたが、横超博士による「初章中仮義」の発見等により、急速に研究が進展し、吉蔵との立場の相違なり、学風なりが明確に出来得る状況に到り、しかも、より確実な資料が出現した現在、内容上からも、現行の遊意は、吉蔵の撰述とは認めがたいと思われる。新たに、吉蔵の撰号を有する資料が出現しない限りは、慧均の撰述書と認めざるを得ないのでなかろうか。

内容上、吉蔵の撰とすることについての疑義と、宝生院本の大槻については、すでに論じた。⁽²⁾そこで、今回は、宝生院当局の許可を得て、それを翻印して参考に供し、併せて、一・二の点について言及したいと考える。すでに発表した論稿を含めて、独断による過誤を犯しているかも知れず、忌憚のない御批判を仰ぐ次第である。

〔註〕

- (1) 本書を吉蔵の撰とする初見は、大日本続蔵經のようである。
 (2) 拙稿「弥勒經遊意の疑問点」(駒沢大学仏教学部論集第四号、昭和四十八年十二月)、「弥勒經遊意と大品經遊意」(印度学仏教学研究第二十二卷第二号、昭和四十九年三月)、「宝生院蔵『弥勒上下經遊意十重』について」(印度学仏教学研究第二十五卷第二号、昭和五十二年三月)。

二 宝生院本の特徴

宝生院所蔵写本は、觀応三年(一三五二)八月に、山城国綴喜郡田辺郷(現在の京都府綴喜郡田辺町)において、三論宗の學僧憲朝により筆写された巻子本であるが、前後同筆ながら、一紙分欠落があつて完本ではない。その欠落の部分に押紙があり、これによつて、筆写の原本において、すでに前後截断され

弥勒上下經遊意卷末欠脱^{セリ}、別幸有^ニ卷末残本^ヲ、請合^{フテ}両本^ヲ而備足焉(第二十紙の次)

ていたことは確かで、恐らく、多少の時間を費やして、巻末の残本をさがしたものであろう。そのせいか、次に文を補つてゐるのであるが、一紙分の脱落があり、料紙も、押紙以前のものとは異つてゐる。ただ一紙分の脱落が、原本そのもの現写本においては、何度も点検補修がされているから、い

に依るのか、後に到つて一紙欠落したのかは明らかでない。⁽¹⁾ ずれかの時点で一紙不明となつたこともあり得る。恐らく、補修の際の接続の誤りと思われる、前後の錯簡も見られる。また、奥書（後出翻印参照）にも記されるごとく、原本の文字脱落等散々の状態であつたごとくである。

宝生院本の第一の特徴は、東大寺東南院の経蔵本との校合をしていることである。本写本の異本校注が東南院本に依るものであることは、奥書によつて知れるが、この東南院本は、現在伝えられていない。現在の東大寺所蔵本は、宗性（一一二六三）の所持本であつたと考えられるが、これは別本である。従つて、現時点において、東南院の経蔵に収蔵されていた遊意の形態を知り得るのは、本写本の校注に依るのみとなる。この校注と、東大寺本等とを比較すると、脱文箇所など、ほとんど一致することから、宗性所持本は、この東南院本を転写したものであろうと推察されるが、表題、科文、一字一句の比較をするときは、かなりの相違が見られ、現在の東大寺本が必ずしも憲朝の見た東南院

本そのままの転写であるとは思われない。その間に隔りがあるように考えられる。別に写本が存していか、校訂が加えられたかの可能性もある。憲朝によれば、東南院本も、虫食等が甚だしく、やはり保存状態が極めて悪かつたと言う。憲朝の見たものは、恐らく東南院に長く伝承されて來た一本であつたと考えられる。それに対し、東大寺本は、憲朝以前の筆写であり、字体判別等より鎌倉時代写とされ、表紙に「宗性」と記されることにより、宗性の所持本であつたろうと推察されるのであるが、保存状態は、非常に良い。そして高野山本（江戸末期写）等の諸本は、よく東大寺本に一致し、現存写本の多くは、東大寺本の転写であることが明らかである。

そこで宝生院本は、これらの系統とは異なる伝承を有することが知られるのである。また、確かに誤字脱字等が認められ、憲朝の慨嘆も首肯し得るが、従来知られていた諸本に比較する時、その程度は、かなり良いと言える。つまり、より原形態を保存していることが確かで、現行本は、それ以上に誤字脱字脱文が多いことが判明するのである。特に脱文が多い。十字以上の脱落の箇所のみで、十一ヶ処存する。その中大体一紙分に近い。これらの脱文は、本来無かつたものが、後に付加されたということではなくて、前後の文脈、内容か

ら元来あるべきものが、転写、虫損等によつて欠落するに到つたと見られるものである。また逆に、本写本にも脱文が存在する。一紙欠落を除いて四ヶ所であるが、多いもので三十一字である。このように相互に脱文が認められ、原形とはかなり相違していると思われるが、本写本の出現によつて、より古形に近づくことが可能になつたことは認められよう。

〔註〕

(1) 原本の第一紙に、「尾張國大須宝生院經藏図書寺社官符点檢之印」の朱印がある。また補修の形跡も存する。

三 憲朝について

次に、宝生院本を筆写した憲朝についてであるが、今日までのところ、管見に入らない。また、筆写の場所も、田辺郷のどこであったのか。いずれかの寺院においてと思われるが不明である。ただ、東南院本との対校は、後述のごとく他の多くの写本が、東大寺において行なわれていることから、多く東大寺に出向いて行つたものと考えられる。しかし、宝生院所蔵の三論宗関係典籍の多くが、憲朝の筆になるものか、憲朝が他をして写さしめたものであり、詳細な奥書の存在につき、次に列挙しておきたい。⁽¹⁾便宜上、西紀年号を()内に示す。

(1) 中論疏聞書の末尾

于時文永十一年（一二七四）八月二十六日於東大寺東室僧房筆功終了感得之至隨喜有余是併為興隆仏法利益衆生矣

三論修行沙門憲朝春秋二十五

(2) 勝鬘寶窟光闡鈔の末尾

嘉曆四年（一三二九）三月三日於東大寺東南院以中觀上人自筆本書写了此書有不慮之子細加一見之次自書教化而競寸陰之間頗文字形不見歟後日必必可書直而已

三論宗憲朝

(3) 大乘三論大義抄卷第四の末尾

康永三年（一三四四）十二月二十七日於東大寺三面僧房實相院

勸他筆書寫了
同日^(余書)逃子鶴松殿切句令校合了

三論宗憲朝

(4) 大乘三論師資伝の末尾

康永三年（一三四四）九月十九日於東大寺西室實相院書写了
同二十二日一校了

三論宗憲朝

(5) 三論遊意の末尾

貞和四年（一三四八）十一月十八日於東大寺三面僧房西室實相院勸他筆令書写了 同日以東南院御經藏本一交了 三論宗憲朝

(6) 鳩摩羅什法師大義卷上の末尾

貞和四年（一三四八）十二月□日於東大寺三面僧房實相院以東南院御本逃人令書写了 同十一日一交了

三論宗憲朝

(7) 鳩摩羅什法師大義卷中の末尾

貞和五年（一三四九）正月十日於東大寺三面僧房實相院申出東南院御本逃人令書写了 同十□日一交了

三論宗憲朝

(8)鳩摩羅什法師大義卷下の末尾

貞和五年正月十六日於東大寺三面僧房実相院申出東南院御本説
人令書写了 同十七日以御本令校合了 三論宗憲朝

(9)華嚴遊意の末尾

貞和四年十一月之比於東大寺三面僧房実相院以他筆令書写了
同十二月二十三日以東南院御本一校了 三論宗憲朝

(10)二諦義私記上巻の末尾

貞和四年十二月九日於東大寺三面僧坊西室實相院申出東南院御

本交点了

(11)二諦義私記下巻の末尾

貞和四年十一月二十七日於東大寺三面僧坊實相院申出東南院御

本令写之了 同二十八日一校了 三論宗憲朝

(12)大品遊意の末尾

貞和五年（一三四九）八月二十九日於東大寺三面禪室實相院以

東南院御本逃他□□人令書写了 同日以彼御本自校合移点了 三論宗憲朝

(13)大品經義疏卷三の末尾

三論宗憲朝

(14)大品經義疏卷五の末尾

觀応三年（一三五三）九月十六日於山城國綴喜郡田辺郷勸他筆

令書写訖写本東南院御經藏本也僻字落字散散多多不可思議之惡

本也 同十九日一交了 三論宗憲朝

康安元年（一三六一）九月十七日一校了逃同宿憲円阿闍梨雖令
書写依忘刻閣之今日交之写本者東南院御經藏本也僻字落字繁多
不可思議本也依不審尤多而已 権大僧都憲朝八八

(15)大品經義疏卷七の末尾

康安元年九月十九日一校了

權大僧都憲朝

(16)大品經義疏卷八の末尾

文和元年（一三五二）十月八日於東大寺三面禪室實相院令書写
了 写本文字散散不可思議也同愚推之所不及一向如本付墨斗也
尋出別本可交之依以今写本不及交合而已 三論宗憲朝

(17)大品經義疏卷九の末尾

文和二年（一三五三）七月十三日一交了写本者東南院御經藏本
也以外落字僻字散散多多五字分□□□□□交合而已 三論宗憲朝

以上によつて、憲朝は東大寺の三論宗の学僧であつたことが
が知られ、特に康永三年（一三四四）以後の十年間は、三論宗

典籍の筆写に専心したようであり、右以外にも、多くの文献
を写得したものと推察される。『弥勒上下經遊意』の奥にも、

抑此書者、嘉祥均正両所之製作在之歟、而所持聖教中、二所釈共
次闕之、仍平來雖有書写之志云云

と述べるごとく、三論宗典籍のほとんど全てを筆写し所持し
たいとの志を常々持つていたことを窺わしめる。そして、そ
の筆写の原本は、東南院御經藏本を中心とするものであつたこ
とも知られる。現在、東大寺所蔵の典籍には、多くの東南院
旧蔵本も含まれていると考えられるが、また多くの散佚した
ものもあることは確かで、憲朝が筆写し、宝生院に伝つた文

献の中には、そのような散佚本が含まれていることが認められ、その価値を高めている。⁽²⁾

そこで、憲朝の生没に関するものが、右の奥書に二ヶ所存する。一つは(1)の文永十一年(一二七四)のものであるが、「三論修行沙門」とい、「春秋二十五」とする。これから逆算すると一二五〇年の生れとなるが、他の奥書の年時を考慮した場合、百歳以上の長命を保つこととなり、少し不自然である。次に(4)の康安元年(一三六一)の奥で「權大僧都憲朝八八」とするが、この「八八」を年令と見れば、八に八を掛けて六十四歳の意味と取るのが普通であり、これに従えば、一二九八年の生れということになり、他の年記との矛盾はない。先の年記に従うと、一三六年は百二歳といふことであるから、多少疑問である。今は、後者に従う方が妥当のように思われるが、没年は不明である。また權大僧都に補任されたのは、文和二年(一三五三)までは、単に「三論宗憲朝」と記し、康安元年の(4)と(5)の奥のみ「權大僧都」としているところから、六十歳前後ではなかつたか。なお『三会定一記』第二(大日本佛教全書第四十九卷威儀部一)には元弘二年(一三三三)の維摩会の東大寺分の研學として憲朝の名が見え、年代的に同一人を指すものではないかと思われるが、確認は出来ない。

次に彼の所属もしくは学系であるが、東大寺の三論宗所属

であることは間違いなかろう。その場合、東大寺の三論宗は、東南院がその本拠であり、東大寺のみならず、南都全体の中心となっていた。しかしながら、憲朝の時代は、その伝統も絶えんとする状況であり、恐らく、三論宗の僧もわずかで、細々と研究が続けられていたに過ぎなかつたと考えられる。そのことは、『三論祖師伝集』や『三論祖師伝』の記載状況からも窺われる。⁽³⁾ この時期に、東南院の院主に任せられたのは、大僧正聖忠(一一三一六一)、聖尋(一一三三〇一)、及び法親王聖珍(一一三七四一)であり、いずれも、第一代聖宝以来の伝統として、顯密兼学を旨とし、三論の長者であると共に、密教の長者でもあつた。東寺長者や醍醐寺座主を兼任している。この中で、憲朝の写本では、聖珍の名が出ている。右に掲げた奥書(4)『大乘三論師資伝』の康安三年の自誌の前に、

建武元年六月一日写了 三論末学聖珍

とある。聖珍(本朝高僧伝五十六、東南院務次第参照)は、建武元年(一一三四)に東大寺別當となり、康永三年(一一四三)、文和元年(一一五二)にも再任され、第二十三代の東南院務である。この聖珍が、憲朝と直接の関係を有するものかは、これのみでは分らないが、少なくとも、聖珍在世の時代において、聖珍の筆写本を以て、さらに写得したものであることが知られ、何らかの関係交渉があつたことは推察されよう。ま

た憲朝も、やはり密教兼学の僧ではなかつたかと思われる。

たろうと思われるが、現在は伝つていない。これらの文献についての調査研究は、後日に期したい。

といふのは、憲朝の筆になる文献の多くが、一括して、真言宗に属する宝生院に伝えられているからである。宝生院所蔵の文献のほとんどは、開山である能信上人（一二九一一三五）が集められたものとされ、以後の住持が、さらに充実させたものとされる。能信の示寂は正平九年（一三五四）とされ

（3）憲朝の頃の東南院務までは、一応伝記も整つてゐるが、それ以後は、中絶のため不明とされたり、単に名前のみが列挙されたりしている。『大日本佛教全書』史伝部一参照。

るから、憲朝の生存中である。従つて憲朝の筆による三論宗文献に関しては、能信の収集にかかるものではなく、第二代の信瑜（一二八九—一三八二）の時代に収藏されるに到つたものであろう。といふのは、信瑜は、能信に伝法灌頂を受け、野沢の諸匠に謁し、その後宝生院に住した。そして、その後嗣を定めるにつき、東南院の聖珍に聽許を得たという。この辺の間に聖珍、憲朝、信瑜の関係交渉が存したと考えられる。ただ、憲朝が真言宗の法系上に現われて来る人物かどうか、また住処等については、今のところ不明である。諸賢の御教示を乞う次第である。

〔註〕

(1) 宝生院所蔵の三論宗関係の文献調査は、昭和五十一年春以来進めてゐるが、まだ終了していない。従つて、ここに掲げたもの以外にも存するかも知れない。

(2) 右に列举した文献の中では、『勝鬘宝窟光闡鈔』『大乗三論師資伝』『三諦義私記』等の原本は、東大寺所蔵の文献であつ

宝生院本の存在を知る前に発表した「弥勒經遊意の疑問点」（駒沢大学仏教学部論集第四号、昭和四十八年十二月）の論稿中に、本写本の調査に依り一部訂正を加えなければならないことが判明した。そこで、次にその点につき言及しておきたいと思う。

先に、右の論稿において該当する箇處の要点を述べると、「遊意」中に見られる仏滅等の年時の記述について考察を加え、その記述をもとにして、本書の成立年時を推定したのであるが、その根拠とした一文に、誤字と脱字が存したことが明らかとなつたからである。今、現行本の当該箇處を次に掲げると、

第八弁弥勒与釈迦同時涅槃不同滅度、尋仏是周莊王十年夏四月八日辛卯度、恒星不現時、即是仏生日、仏是惠王八年四月八日出生家、于時年十九、至惠王十九年四月八日成道、于時年三十、至經（匡王）五年二月十五日滅度、于時年八十、仏自出世、從周莊王至契、舍得一千二百四十年（大正三八・二六八上）

と述べる所で、付線をした部分を特に問題としたものであつた。右の文章では、一千二百四十年というのが、仏の出世時から言つたものか、滅度後何年という数え方をしたものか。また、何時まで一千二百四十年と言つたのか明確でなかつた。右の内、出世から数えたものであろうことは考えられるところであるが、「至契」の意味をどう取るかに迷つた。「契」というのが「梁」の写誤かどうかといつたことである。一応両方の考え方を出したのであつたが、諸本共に同じ記述をしていること、また自己の論述の意図に執着した結果として、右の文を、一応正しいものと見て扱い、仏滅後何年という数え方の例（歴代三宝紀等）に影響されて、いきおい私意による我田引水的な解釈を試みる結果となつた。そして、右の箇処を、仏滅より本書の撰述時まで一千二百四十年という意味に受取り、本書の年記に従つて逆算して、その一千二百四十目というのが、唐の貞觀七年ということになると推定したのである。

しかし、右の部分は宝生院本では次のようになつていたのである。

仏自_二出世_一來、從_二周莊王_一至_二梁、舍得_二一千二百四十年_一

これに依れば、読みについては何ら迷う要はない。著者は仏の出世、つまり周莊王十年より梁に至るまで一千二百四十年であると言つてゐること明白である。従つて、それに当

る年は、梁末の承聖三年（五五四）ということで、端数を省略したとすれば、丁度梁の末年までの年数を数えたことになる。よつて、前稿の推定は、今の宝生院本の記述に従い、訂正したいと思う。

そこで、今年の年数の数え方と著作成立の年時とは一応切離して考えなければならないことになる。梁末の成立ではなかろうという視点は、前稿にても触れたごとく、真諦訳の『俱舍論』と『立世阿毘曇論』に言及するからであるが、早ければ陳中期から末期の成立ということも考えられよう。その点からすれば、開皇十七年（五九七）の費長房の『歴代三宝紀』よりも先の成立という可能性も出て来る。本書や「三宝紀」で述べる仏の出生、成道、滅度の年代説は、陳代から隋代における一般説であつたとすれば、必ずしも、本書が「三宝紀」の説を採用したものとのみは言えないということである。以上によつて、本書の成立年時については、なお不明とせざるを得ない。

さて、前稿において、右の点につき論及した主旨、そのねらいは、右の一文を根拠として、本書の成立年時を推定し、その年時が、吉藏の著作可能な年代から外れること。そのことを以て、本書が吉藏の撰ではないという一つの論拠にしようとしたものであつた。以上述べたことにより、この点は削除しなければならないことになる。ただ、この一項を除いた

としても、本書を吉藏の著書ではなかろうという立場には変らず、全体としての論旨には影響ない。しかし、かなり有力と考えた一の傍証となるものが除かれたということである。この点、特にお断りしておきたいと思う。

五 翻印の留意点

翻印を試みるに際しての留意点を述べる前に、第一にお断りしておきたいのは、普通一般に行なわれている、写真撮影のプリントに基づくものではない点である。宝生院所蔵文献は、原則として写真撮影は認められない。従つて、筆者は、数回の調査により、原本より直接手書に依つて写したものを基にしている。一度筆写した後、写誤を正すためにさらに原本との校合を行い、正確を期した。しかし、何分、手元に写真プリントがないこともあって、あるいは、筆写の際に誤りも存するやも知れず、その辺の事情を御理解願いたいと思う。

次に、本書には、先にも触れたごとく、異本数種が存する。当初、これらの異本との対校を行い、宝生院本との同異を明確にしたいと考えていた。しかし、比較対照の結果として、宝生院本以外の諸本は、多少の辞句の出入があるのみで、同一系統であることが認められ、年代から言えば、東大寺本が元になっていることが明らかとなつた。そこで、対校

本としては、現在のところ東大寺本のみで充分であるということである。しかし、東大寺本と宝生院本では、文字の出入が相当に激しく、一紙分（四二〇—四五〇字位）につき、大体三十箇處前後の相違がある。そこで、印刷の都合上、異本校合は省略し、宝生院本の紹介のみということにした。いずれ、諸本校合の上、校訂註記を加えたいと考えている。

今回の翻印に際し留意した点は次のとくである。

1、原本で使用されている、古字・異体字・略字等は、原則として活字用正字に改め統一した。また適宜句点（。）をほどこし、改行を加えた。

2、誤字・衍字と思われるものも、そのまま印刷したが、明らかなものには、文字の左傍に（・）を付した。

3、原本の行間等に付記せる異本校合の注記は、当該箇処、又は文字の右肩に番号（1 2 ……）を付し、頭註とした。註番号を付せるものは、すべて原本に存する異本

校注である。但し、原本の書式を次のように改めた。

例 「第一^{明イ}序……」→「一」の下ニ「明」アリ

「亦名^{所イ}経出」→「亦名経出」ナシ

「無^{所イ}可得」→注番号の下に、異字のみを示す。

4、原本の書式・形態や諸本との対照上、特に注意される事項は、（*）印を付して、頭註に記した。

*原本見返ニ「弥勒經遊意」トアルモ後筆ナラ

ン。諸本共内題ハ「弥勒經遊意」トス。

1「下」ノ下ニ「二」アリ。

*撰号ヲ記スハ、本書ノミニシテ、他ノ諸本共

ニ缺ク。

2「イ本虫食」トアリ。

弥勒上下經遊意十重¹

^{*2}
均僧正撰

3「一」ノ下ニ「明」アリ。
4「亦名經出」ナシ。

第一序王 第二明釋名 第三辨經宗亦名經出 第四論因果 第五明出世久遠 第六論成道
奢促 第七辨三會度人少多 第八論與釋迦同時涅槃 第九明教大小 第十辨雜料簡

5「与釋迦」ナシ。

序王

⁶所

7「卒」ノ下ニ「天」アリ。

諸佛出世爲大事因緣故。居初發心不足之地。專學無可得大乘修諸法萬行故。或上兜率⁷爲
8「成」ノ上ニ「乃」アリ。

諸天子。說般若波羅密。或五十六億七千萬歲時。下閻浮提。成種覺。故前佛後八相成道。

紹位紹尊。皆是一生補處。故前記釋迦。次授彌勒。明此菩薩切十地之最高。行踰三忍之
9「切」ノ下ニ「最」アリ。

上。方當改穢斯土。爲彼淨國。人壽卽八萬四千。由卽一種七獲。況乃名華軟草浮空滿地。

寶藏神珠盈瞿逸陌。¹⁰
三會說法。道樹天人。一切名字。悟無生忍也。¹¹

第二釋名

*原本ハ改行ナシ。

2那

4成

5「那」ハテニ「羅」アニ。

6「者」ノ下ニ「智者」アリ。
7「清淨覺……三藏云」ノ二十五字ナシ。

8 羅
果
* 以上第一紙

10

18 17 16 15 14 13 12 11
 「之」ノ下ニ「人」アリ。
 「勒」ノ下ニ「者」アリ。
 「与弥勒阿逸多」ナシ。
 「生下」ナシ。
 「亦言」ナシ。

四。三藏云。修多蘭多含⁸五異名之。今上下兩經。⁹舉胡漢兩音與人法二種。因經。所以爾者。示修行之階。是前生天後下生人得成佛故也。次簡阿逸多與彌勒。阿逸多此云無能勝。¹⁰故淨土經云。莫能勝也。¹¹彌勒亦名彌帝禮。或云彌帝隸迦也。婆須密經亦言和修密經。¹²云阿羅彌勒也。此云觀慈氏。但相傳或云。阿逸多是名彌勒是性。或云。阿逸多是性彌勒是名。

兩釋未詳取捨也。此人曩劫行慈。久習慈因。修慈以立爲名。舉德標人。故言慈氏。故釋論云。阿難問佛。何因緣得彌勒字。佛答云。過去久遠。此閻浮提中有一佛出世。名曰弗沙。

¹⁹「入慈……仏答云此比丘入」ノ三四四字ナシ。

彼時有國王。名曇摩留枝。往佛所時。見一比丘入慈三昧。形身安靜。放大光明。王見即問

20 欣

佛。此比丘入何三昧光明。乃佛答云。此比丘入慈心三昧。王聞此語。信增欽仰言。此慈心

定魏魏乃爾。我亦修習此慈心三昧。爾時曇摩留枝王。今彌勒是。於彼世界發此慈心。自此

21 燃燈

以來常字彌勒。久習性故。至成佛時猶名慈氏。如燃燈佛。生時一切身邊如燈故。名燃燈

22 曰

佛。初本乞油供養諸比丘因緣。爲目燃燈。亦名錠光佛。如聲類書曰。有足名錠。無足曰燈

23 「燈」ノ下ニ「佛」アリ。

24 錠

25 「二」ノ下ニ「卷」アリ。

26 「利」ノ下ニ「村」アリ。

27 初本乞油供養諸比丘因緣。爲目燃燈。亦名錠光佛。如聲類書曰。有足名錠。無足曰燈

28 案
*以上第三紙

29 必
30 成
31 「為立」ナシ。

32 勝名相
33 「聞」ノ下ニ「名」アリ。

34 「波羅捺」ナシ。

35 達
36 心
37 遷
38 37 ナシ

其母素性不能善。懷兒以來慈矜苦見。相師喜言。是兒者必慈心。因此爲立名。號曰彌勒。

父母愛重。心無有量。其殊美稱。令國土宣傳聞。³³波羅捺國王名梵摩遠。³⁴聞之心懷懼。恐奪

王位。意未長大時。方便除之。其父母知意。遣人遂與其舅。舅名波婆利。領五百弟子。在

異國學道。舅得彌勒已教學問。³⁷學未經歲時。卽通經書。其舅後時聞有佛出世。卽遣彌勒等

十六人。往至佛所。念爲四問。一問幾相。二問年壽。三問弟子。四問種性。彌勒問已。如

39

40若
41座起則
42「便」ノ下ニ「醫」アリ。

43ナシ

44「從」ノ上ニ「能」アリ。

45ナシ

46比丘尼

47被

48裏

49重

50有無

46ナシ

47被

48裏

49重

50有無

47被

48裏

49重

50有無

來歡喜答。佛更開化說法。其十五人卽得法眼淨。各從⁴¹起索出家。佛言善來。便髮自墮。⁴²重以方便。爲其說法。其十五人。成阿羅漢。彌勒七歲時發心而已也。⁴³彌勒後時。從佛還加維羅國。大愛道爲佛手自紡績。作一端金色縷之疊袈裟。⁴⁵繫心積想。以奉世尊。世尊不受之。⁴⁶還令供養衆僧。遂語卽供養衆僧。衆僧中行之。無有欲取者。至彌勒前卽取著之地。一時從佛遊波羅捺國。身紫磨金色。又披金縷織袈裟。⁴⁷表裏相稱。行乞食到大陌上。擎鉢住止。人民見之。觀者無有足之。雖皆敬重。⁴⁹而無⁵⁰有人與食者。時有一穿珠師之利。⁵¹彌勒卽將此師還ノ十三字アリ。

衆僧。衆僧廣說法供養利重。佛爲其引阿那律過去施一毾。得生生世世無貧窮。亦爲說施⁵²彌勒未來果報事也。⁵³問。若華金縷袈裟者。是出家菩薩。彌勒經亦云。此阿逸多雖復出家。不

修禪定不斷煩惱等者。而觀佛三昧經第八卷云。彌勒菩薩。脫瓔珞奉上如來。以此知出家人。永應華瓔珞等。答。法法師釋云。或是未出家時。奉上瓔珞等。爲此經與賢愚經等。已

出家時不意也

*原本ハ改行ナシ。

*第三辨宗體

*右^ニ同ジ。

一往大判。上生經大乘爲宗體。下生經小乘爲宗體。故上生經。具論六度四等菩薩行。亦具

詮中假。故大乘因果等爲宗。如後第九段中簡也。下生經。但辨戒定慧三品三藏。故小乘爲宗。¹故三會說法證四果而已。亦但論假不明中故也。問。經中具明常樂等四德。云何小乘爲

宗耶。答。常樂等四德義。辨小乘涅槃四德等。亦是對臺壞無常等。說常樂等。未必破三修

宗耶。²「此」ノ下ニ「曰」アリ。³皆比丘說常樂等四德。或傍明大乘。故下生經云。即此出家日阿耨三菩提也。一家義宗。⁴⁵

切法無非經。色表非色。香表非香等。一切法例無非是經。但就釋迦教。色聲等爲經體。不

二而二明之。十五色中三色爲經體得也。若言宗體異者。正法爲體。因果爲宗也。具如大經

疏與大品疏等之也。⁶⁷

6 説
ナシ

*原本ハ改行ナシ。

*第四論因果

*右三同ジ。

1 遷

*以上第四紙
2 ナシ

3 「迦旃延……問」ノ十七字ナシ。

4 「小」ノ下ニ「乘」アリ。

5 ナシ
6 論師
7 ナシ

8 ナシ
9 「十」ノ下ニ「名」アリ。

10 「名」ノ上ニ「千萬那由他」アリ。

是大乘滿教也。答。亦難知之。但有傍有正。迦旃延雖正明小教。而傍明大乘滿教菩薩解經云。於一地中。經百千大劫。方成一地之行。不數軟根者也。若如大智論。迦旃延尼子云。三阿僧祇劫。修智果行也。問。迦旃延尼子。申半教而辨菩薩積劫解行者。何謂半教則行。何妨也。如成實論⁵云。正解三藏中實義。而不妨。彼論大小利業品云。檀等六波羅蜜得

阿耨三菩提果也。阿僧祇者。十十百。十百名千。十千名萬。十萬名億。千萬億名那由他。

*「我當……自發言」ノ二十三字諸本缺ク。
11 「得」ノ下ニ「作」アリ。

12 智
13 「在」ノ下ニ「前」アリ。
14 發心在後

知我當作佛。第二阿僧祇中。雖自知我當作佛。而不敢發言。我當作佛。第三阿僧祇中行了。

15 「菩提」ノ二字ナシ。

行了自知我當得佛。自發言心無所畏。具足一切知也。經云。彌勒發心在釋迦前。故佛藏經

16 「大」ノ上ニ「又」アリ。

云。彌勒昔時值善明佛出世。於彼佛所。最初發菩提心。故經云。彌勒發心在釋迦前四十劫也。大方便報恩經云。今釋迦前有一佛出世。名大釋迦牟尼。時於地獄中火車見受苦。方得

發大心。從此過去大釋迦佛至罽那尸佛。名爲初阿僧祇。是時釋迦菩薩。不離女身。從罽那

尸佛至燃燈佛。名爲第二阿僧祇。是時始得離女身。是時菩薩持五華供養。上燃燈佛。敷鹿

皮衣。布髮淹泥。是時燃燈佛。坐爲授記。汝於來世^{*}。遇九十一劫。當得作佛。號釋迦牟

尼。從燃燈佛至毘婆尸。名爲第三阿僧祇。修種智滿足作佛也。第二論果德。有近果與遠

果。¹⁷近果者。如經云。後十二年二月十五日。還本處捨命生於第四天。名爲近果。¹⁸遠果有二。¹⁹

²⁰果。²¹近果。即應果。²²遠果。有二。²³種。一者。²⁴千。二者。²⁵萬。

也。²⁶五十六億七千歲時。下閻浮提成佛。卽是應果。²⁷若積劫修行。金剛發心後成佛。名

爲真果也。問。橫疎論之。有可如此。堅密正果。²⁸何不辨之。答。正果非近與遠。非因非

果。故不辨之。若欲強明之亦得也。第三辯始終時節者。如賢劫等經云。有三世劫。²⁹劫有千

佛。過去莊嚴劫千佛。現在賢劫千佛。未來星宿劫千佛。此三千往昔同修行勝因故。次第致

¹⁷「近」ノ上ニ「言」アリ。
¹⁸「後」ノ上ニ「劫」アリ。
¹⁹「本」ノ下ニ「生」アリ。
²⁰「果」ノ下ニ「也」アリ。
²¹「遠」ノ上ニ「言」アリ。
²²「果」ノ下ニ「者」アリ。
²³種。
²⁴一者。
²⁵千。
²⁶者。
²⁷ナシ。
²⁸容。
²⁹ナシ。
³⁰与。
³¹「劫」ノ下ニ「劫」アリ。

³²佛

¹「出世与也出世有前有後」ヲ「与出出有前後」ニ作ル。

²「三」ノ上ニ「過」アリ。

³「有」ノ下ニ「遲速」アリ。
⁴「供養」ノ二字ナシ。

⁵ナシ
⁶ナシ

二相業自有³。遲則百劫。疾則九十一劫也。既五華散⁴供養佛故。後九十一劫當作佛。但直明之。應百劫滿足作佛。而精進苦行故。超踰九劫。餘九十一劫也。若不超者。應在彌勒後成佛。故經中往往云。彌勒發心行道在釋迦前。但不精進苦行故。成佛處後。故彌勒自念言。

⁷ナシ
⁸諸天子

*以上第六紙

我寧千阿僧祇劫。生在兜率陀天。說法度人。不能暫捨身種種苦行也。釋迦精進苦行故超之。九十一劫得成佛也。如大經中聞羅刹說偈超十二劫⁷。大論云超九劫。不同者。諸法師釋云。小劫超十二劫。大劫超九劫。三劫各超一劫。故九劫也。問。大經云何聞偈超十二劫⁸。

大論名爲九耶。答。大經云。雪山菩薩。聞羅刹爲說諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅故。超¹¹大論名爲九耶¹²。問。大經云。雪山菩薩。聞羅刹爲說諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅故。超¹³大論名爲九耶¹⁴。自滅¹⁵ノ下ニ「為業」アリ。

十二劫。大論云。廣解弗沙佛出世事。而不定說時節久遠。此但彼佛有二弟子。一名釋迦。

二名彌勒。弗沙佛。觀釋迦菩薩心未純熟。所化弟子心已純熟。所以爾者。釋迦心自心傍化¹⁶。行然¹⁷。然¹⁸。然¹⁹。然²⁰。然²¹。然²²。然²³。然²⁴。

他爲正故。又彌勒心已純熟。而所化弟子心未純熟。所以爾者。自爲正心。化他傍故也。是

²⁴使
²²ナシ
²¹弥勒自行
²³「他」ノ下ニ「為」アリ。

時弗沙佛。作如是思惟。一人之心易可化度。衆人心難可調伏。故弗沙佛。欲便釋迦疾得成

25
名花

佛。卽上雪山於寶窟中。入火光三昧。是時釋迦菩薩。化外道仙人。上山採藥。仍見弗沙佛。

26
ナシ27
佛

「敬信」ヲ「修」ニ作ル。

28
ナシ

30
間
ナシ

31
超32
非33
者34
近35
世

35「世」ノ下ニ「間」アリ。
36「傍注」ニテ「イ本ニハ注龜字」トアリ。

37
三十38
三十39
吉40
二41
傍注42
劫初中43
村44
傍注45
唱46
尼47
佛48
中49
壽命50
ナシ51
ナシ52
ナシ53
ナシ54
ナシ55
ナシ56
ナシ57
ナシ58
ナシ59
ナシ60
ナシ61
ナシ62
ナシ63
ナシ64
ナシ65
ナシ66
ナシ67
ナシ68
ナシ69
ナシ70
ナシ71
ナシ72
ナシ73
ナシ74
ナシ75
ナシ76
ナシ77
ナシ78
ナシ79
ナシ80
ナシ81
ナシ82
ナシ83
ナシ84
ナシ85
ナシ86
ナシ87
ナシ88
ナシ89
ナシ90
ナシ91
ナシ92
ナシ93
ナシ94
ナシ95
ナシ96
ナシ97
ナシ98
ナシ99
ナシ100
ナシ101
ナシ102
ナシ103
ナシ104
ナシ105
ナシ106
ナシ107
ナシ108
ナシ109
ナシ110
ナシ111
ナシ112
ナシ113
ナシ114
ナシ115
ナシ116
ナシ117
ナシ118
ナシ119
ナシ120
ナシ121
ナシ122
ナシ123
ナシ124
ナシ125
ナシ126
ナシ127
ナシ128
ナシ129
ナシ130
ナシ131
ナシ132
ナシ133
ナシ134
ナシ135
ナシ136
ナシ137
ナシ138
ナシ139
ナシ140
ナシ141
ナシ142
ナシ143
ナシ144
ナシ145
ナシ146
ナシ147
ナシ148
ナシ149
ナシ150
ナシ151
ナシ152
ナシ153
ナシ154
ナシ155
ナシ156
ナシ157
ナシ158
ナシ159
ナシ160
ナシ161
ナシ162
ナシ163
ナシ164
ナシ165
ナシ166
ナシ167
ナシ168
ナシ169
ナシ170
ナシ171
ナシ172
ナシ173
ナシ174
ナシ175
ナシ176
ナシ177
ナシ178
ナシ179
ナシ180
ナシ181
ナシ182
ナシ183
ナシ184
ナシ185
ナシ186
ナシ187
ナシ188
ナシ189
ナシ190
ナシ191
ナシ192
ナシ193
ナシ194
ナシ195
ナシ196
ナシ197
ナシ198
ナシ199
ナシ200
ナシ201
ナシ202
ナシ203
ナシ204
ナシ205
ナシ206
ナシ207
ナシ208
ナシ209
ナシ210
ナシ211
ナシ212
ナシ213
ナシ214
ナシ215
ナシ216
ナシ217
ナシ218
ナシ219
ナシ220
ナシ221
ナシ222
ナシ223
ナシ224
ナシ225
ナシ226
ナシ227
ナシ228
ナシ229
ナシ230
ナシ231
ナシ232
ナシ233
ナシ234
ナシ235
ナシ236
ナシ237
ナシ238
ナシ239
ナシ240
ナシ241
ナシ242
ナシ243
ナシ244
ナシ245
ナシ246
ナシ247
ナシ248
ナシ249
ナシ250
ナシ251
ナシ252
ナシ253
ナシ254
ナシ255
ナシ256
ナシ257
ナシ258
ナシ259
ナシ260
ナシ261
ナシ262
ナシ263
ナシ264
ナシ265
ナシ266
ナシ267
ナシ268
ナシ269
ナシ270
ナシ271
ナシ272
ナシ273
ナシ274
ナシ275
ナシ276
ナシ277
ナシ278
ナシ279
ナシ280
ナシ281
ナシ282
ナシ283
ナシ284
ナシ285
ナシ286
ナシ287
ナシ288
ナシ289
ナシ290
ナシ291
ナシ292
ナシ293
ナシ294
ナシ295
ナシ296
ナシ297
ナシ298
ナシ299
ナシ300
ナシ301
ナシ302
ナシ303
ナシ304
ナシ305
ナシ306
ナシ307
ナシ308
ナシ309
ナシ310
ナシ311
ナシ312
ナシ313
ナシ314
ナシ315
ナシ316
ナシ317
ナシ318
ナシ319
ナシ320
ナシ321
ナシ322
ナシ323
ナシ324
ナシ325
ナシ326
ナシ327
ナシ328
ナシ329
ナシ330
ナシ331
ナシ332
ナシ333
ナシ334
ナシ335
ナシ336
ナシ337
ナシ338
ナシ339
ナシ340
ナシ341
ナシ342
ナシ343
ナシ344
ナシ345
ナシ346
ナシ347
ナシ348
ナシ349
ナシ

咸。五百萬歲時。轉輪聖王出化。從爾後稍稍咸也。賢劫經云。至四萬歲時。有第四拘那提

13ナシ

14ナシ

15「釋」ノ上ニ「方」アリ。

16「兜卒……闍浮」ノ三十一字ナシ。

17傍注ニ「已上イ無。イ本太不審也」トアリ。

20歳 19歳 18歳
21「沙門……文別」ノ十三字ナシ。諸本共ニ欠
ク。
22歳
23「人」ノ下ニ「壽」アリ。

千二百歲時。¹⁵釋迦始上兜率天。於天數四千歲。卽人間五十六億七千萬歲。人壽百歲時。從

¹⁴16

兜率下闍浮提作佛。正法五百年。¹⁸像法千年。¹⁹過千五百年。則釋迦法滅盡。沙門尼戒經云。²¹

²⁰

像正各萬年。又別則經云。末法一萬年也。唯有辟支佛行化也。人命稍稍轉促至十歲時。三

²³

災競起。土地彫荒。諸惡人死盡。國界空疎。相見卽相殺。時有仙人出世。名郭相。亦云敦²⁵
30ナシ
31解
32年
33年
34ナシ
35ナシ
36輪
37王
38ナシ
39壽命
40ナシ
41「名」
42「大」
ノ上ニ「父名梵摩母」アリ。
ノ下ニ「経」アリ。

智。²⁶勸戒云莫相殺。爲相殺因緣漸漸短促。須修善行慈之。²⁸惡人等改往修來因緣。²⁹故卽復所^{*}
30
31
32
33
34
35

生子。壽命二十歲。³²如是子復生子。子孫壽命四十歲。轉增至百歲一萬二萬三萬乃至六萬歲³⁴
³⁵

時。有轉輪王出世行化。³⁷主主相次經第七時。人壽八萬四千歲時。彌勒佛出興世。于時安樂

人民熾盛時下生也。大賢劫經云。慈氏佛光照四十里。梵志種。名梵德。大彌勒經意云。父

¹「人主」ヲ「聖人」ニ作ル。

²名

³聖

⁴名

⁵有

⁶賢

⁷「壽」ノ下ニ「命」アリ。

⁸時

⁹曾

¹⁰ナシ

¹¹満

¹²著

¹³至

¹⁴ナシ

¹⁵復

¹⁶ナシ

¹⁷名

¹⁸「如來」ヲ「佛」ニ作ル。

¹⁹「佛」ノ下ニ「出」アリ。

²⁰復

²¹ナシ

²²「如來」ヲ「佛」ニ作ル。

²³此

²⁴故

²⁵昔

²⁶何

²⁷ナシ

²⁸「子」ノ下ニ「名對王子」アリ。

²⁹「取」ノ下ニ「算」アリ。

*以上第九紙

是國師。有人主之德。故言修梵摩。此云善德。亦言善淨。母名梵摩跋提。此云德主。亦云⁴淨主也。賢劫經云。子曰德力。多聞侍者曰海氏。智慧弟子名慧光。神通弟子曰堅精進。佛種。父名舅師子。母名江音。子名大力。多聞侍者名善樂。神足弟子名兩氏。智慧弟子名智

⁷「壽」ノ下ニ「命」アリ。

在時。人壽八萬四千歲。正法八萬歲。舍利共興一大寺弘法也。師子佛光照四十里。君子積。佛在世時。人壽七萬歲。三會說法。正法億歲。舍利流布八方上下也。從拘樓秦佛。至

九百九十九佛。共出前半劫。後樓至如來。獨用半劫。樓至滅度後。更六十二劫中。空過無有佛出世。過爾而後。第六十三劫中。有一佛。號爲淨光稱王如來出世。壽命十小劫化衆

生。過此佛後復三百劫。空過無有佛世。訖此唯有千佛。前後合言三千佛也。問。樓至如²²

來。何故獨半劫耶。答。應是隨緣機應如斯耳。問。復何知賢劫中有千佛耶。答。金剛力士

經云。昔轉輪聖王出世。有千子具足。諸王子各發菩提心。願求作佛。父聖王欲誠。此千王

子誰前作佛。題取千王子。以香湯洗之。令千王子採取。得第一者最初佛。如是至九百九十

²³生。

²⁴問。

²⁵此

²⁶問。

²⁷此

²⁸問。

²⁹此

子誰前作佛。題取千王子。以香湯洗之。令千王子採取。得第一者最初佛。如是至九百九十

30「名」ノ上ニ「二」アリ。

31無
32ナシ

33「生」ノ下ニ「壽命」アリ。

34与
35ナシ

36ナシ
37番
38ナシ

小王子聞此語。悲泣更思惟。世界無邊。衆生不盡。我今³¹發願。願我作佛時。我在世界衆生。³³具如諸王子等所度衆生數亦同之。於是地六種振動。佛即與其授記。以是因緣故最後一

34
35
36
37
38

8

佛化。獨當半劫也。以啼泣故。名爲啼泣佛。啼泣標佛。樓至者此云啼泣。亦云光明。佛生

時有勝光明故。於是諸王子即發願。王子作佛時。我等金剛護樓至佛。但金剛護。或是五性

39「出世」ヲ「王」ニ作ル。
40ナシ
41王
42然
43王
44王
45王
46王
47王
48王
49王
50王
51王
52王
53王
54王
55王
56王
57王
58王
59王
60王
61王
62王
63王
64王
65王
66王
67王
68王
69王
70王
71王
72王
73王
74王
75王
76王
77王
78王
79王
80王
81王
82王
83王
84王
85王
86王
87王
88王
89王
90王
91王
92王
93王
94王
95王
96王
97王
98王
99王
100王
101王
102王
103王
104王
105王
106王
107王
108王
109王
110王
111王
112王
113王
114王
115王
116王
117王
118王
119王
120王
121王
122王
123王
124王
125王
126王
127王
128王
129王
130王
131王
132王
133王
134王
135王
136王
137王
138王
139王
140王
141王
142王
143王
144王
145王
146王
147王
148王
149王
150王
151王
152王
153王
154王
155王
156王
157王
158王
159王
160王
161王
162王
163王
164王
165王
166王
167王
168王
169王
170王
171王
172王
173王
174王
175王
176王
177王
178王
179王
180王
181王
182王
183王
184王
185王
186王
187王
188王
189王
190王
191王
192王
193王
194王
195王
196王
197王
198王
199王
200王
201王
202王
203王
204王
205王
206王
207王
208王
209王
210王
211王
212王
213王
214王
215王
216王
217王
218王
219王
220王
221王
222王
223王
224王
225王
226王
227王
228王
229王
230王
231王
232王
233王
234王
235王
236王
237王
238王
239王
240王
241王
242王
243王
244王
245王
246王
247王
248王
249王
250王
251王
252王
253王
254王
255王
256王
257王
258王
259王
260王
261王
262王
263王
264王
265王
266王
267王
268王
269王
270王
271王
272王
273王
274王
275王
276王
277王
278王
279王
280王
281王
282王
283王
284王
285王
286王
287王
288王
289王
290王
291王
292王
293王
294王
295王
296王
297王
298王
299王
300王
301王
302王
303王
304王
305王
306王
307王
308王
309王
310王
311王
312王
313王
314王
315王
316王
317王
318王
319王
320王
321王
322王
323王
324王
325王
326王
327王
328王
329王
330王
331王
332王
333王
334王
335王
336王
337王
338王
339王
340王
341王
342王
343王
344王
345王
346王
347王
348王
349王
350王
351王
352王
353王
354王
355王
356王
357王
358王
359王
360王
361王
362王
363王
364王
365王
366王
367王
368王
369王
370王
371王
372王
373王
374王
375王
376王
377王
378王
379王
380王
381王
382王
383王
384王
385王
386王
387王
388王
389王
390王
391王
392王
393王
394王
395王
396王
397王
398王
399王
400王
401王
402王
403王
404王
405王
406王
407王
408王
409王
410王
411王
412王
413王
414王
415王
416王
417王
418王
419王
420王
421王
422王
423王
424王
425王
426王
427王
428王
429王
430王
431王
432王
433王
434王
435王
436王
437王
438王
439王
440王
441王
442王
443王
444王
445王
446王
447王
448王
449王
450王
451王
452王
453王
454王
455王
456王
457王
458王
459王
460王
461王
462王
463王
464王
465王
466王
467王
468王
469王
470王
471王
472王
473王
474王
475王
476王
477王
478王
479王
480王
481王
482王
483王
484王
485王
486王
487王
488王
489王
490王
491王
492王
493王
494王
495王
496王
497王
498王
499王
500王
501王
502王
503王
504王
505王
506王
507王
508王
509王
510王
511王
512王
513王
514王
515王
516王
517王
518王
519王
520王
521王
522王
523王
524王
525王
526王
527王
528王
529王
530王
531王
532王
533王
534王
535王
536王
537王
538王
539王
540王
541王
542王
543王
544王
545王
546王
547王
548王
549王
550王
551王
552王
553王
554王
555王
556王
557王
558王
559王
560王
561王
562王
563王
564王
565王
566王
567王
568王
569王
570王
571王
572王
573王
574王
575王
576王
577王
578王
579王
580王
581王
582王
583王
584王
585王
586王
587王
588王
589王
590王
591王
592王
593王
594王
595王
596王
597王
598王
599王
600王
601王
602王
603王
604王
605王
606王
607王
608王
609王
610王
611王
612王
613王
614王
615王
616王
617王
618王
619王
620王
621王
622王
623王
624王
625王
626王
627王
628王
629王
630王
631王
632王
633王
634王
635王
636王
637王
638王
639王
640王
641王
642王
643王
644王
645王
646王
647王
648王
649王
650王
651王
652王
653王
654王
655王
656王
657王
658王
659王
660王
661王
662王
663王
664王
665王
666王
667王
668王
669王
670王
671王
672王
673王
674王
675王
676王
677王
678王
679王
680王
681王
682王
683王
684王
685王
686王
687王
688王
689王
690王
691王
692王
693王
694王
695王
696王
697王
698王
699王
700王
701王
702王
703王
704王
705王
706王
707王
708王
709王
710王
711王
712王
713王
714王
715王
716王
717王
718王
719王
720王
721王
722王
723王
724王
725王
726王
727王
728王
729王
730王
731王
732王
733王
734王
735王
736王
737王
738王
739王
740王
741王
742王
743王
744王
745王
746王
747王
748王
749王
750王
751王
752王
753王
754王
755王
756王
757王
758王
759王
760王
761王
762王
763王
764王
765王
766王
767王
768王
769王
770王
771王
772王
773王
774王
775王
776王
777王
778王
779王
780王
781王
782王
783王
784王
785王
786王
787王
788王
789王
790王
791王
792王
793王
794王
795王
796王
797王
798王
799王
800王
801王
802王
803王
804王
805王
806王
807王
808王
809王
810王
811王
812王
813王
814王
815王
816王
817王
818王
819王
820王
821王
822王
823王
824王
825王
826王
827王
828王
829王
830王
831王
832王
833王
834王
835王
836王
837王
838王
839王
840王
841王
842王
843王
844王
845王
846王
847王
848王
849王
850王
851王
852王
853王
854王
855王
856王
857王
858王
859王
860王
861王
862王
863王
864王
865王
866王
867王
868王
869王
870王
871王
872王
873王
874王
875王
876王
877王
878王
879王
880王
881王
882王
883王
884王
885王
886王
887王
888王
889王
890王
891王
892王
893王
894王
895王
896王
897王
898王
899王
900王
901王
902王
903王
904王
905王
906王
907王
908王
909王
910王
911王
912王
913王
914王
915王
916王
917王
918王
919王
920王
921王
922王
923王
924王
925王
926王
927王
928王
929王
930王
931王
932王
933王
934王
935王
936王
937王
938王
939王
940王
941王
942王
943王
944王
945王
946王
947王
948王
949王
950王
951王
952王
953王
954王
955王
956王
957王
958王
959王
960王
961王
962王
963王
964王
965王
966王
967王
968王
969王
970王
971王
972王
973王
974王
975王
976王
977王
978王
979王
980王
981王
982王
983王
984王
985王
986王
987王
988王
989王
990王
991王
992王
993王
994王
995王
996王
997王
998王
999王
1000王

1傍注「鑄」トアリ。

2修
3善

*以上第十紙

起。轉無明以爲明。故大經云。故無明轉變⁴爲明。若通論成佛。凡心識⁵之者。皆是其體。故

4 發
5 ナシ

6 積
7 満
8 ナシ
9 言
10 而
11 意

大經云。一切衆生悉皆有心。凡有心者悉得三菩提也。別而爲語。唯精劫修行。金剛心後衆

德圓備⁷。乃名真成佛也。今大乘宗。橫論之。假名說之。亦有此意。但一家義宗。彼諸家心

德圓備⁷

8 ナシ

9 言

10 而

11 意

神識成佛。云之心打破。洗盡淨假名爲真成佛。而彌勒者。十住斷結經與諸佛下生經云。
10
11

久已成佛。但迹中一日出家。卽此日成佛也。若論法身之體。名言心識俱絕。但慈悲滿足。

不違誓願。萬德莊嚴。所以爾者。爲化物故棄形。誰欲界應迹衆生。故種種應現。爲欲引物
12
13

令出有無與生死。故棄形不同。今七佛形壽等不同。如長阿含等云。第一毗婆尸佛。亦名維

衛佛。佛性是刹利王種。刹利種此云分國主。性憍陳如。佛身長二千四百里。紫磨黃金色。
14
15

諸金色中第一。如世間上金。出閻浮提阿周那根下也。末利夫人頭上金釵是歲樹下金。夫人
*「色中……頭上金」ノ二十六字諸本共ニナシ。

16 「不現」ヲ「下見」ニ作ル。
一時禮佛。頭上金釵落地。都不見金釵下乎。橫之佛光影不現。故如佛色紫磨黃金色。復勝

17 檜
18 ナシ

19 檜
20 「由旬高四」ノ四字ナシ。

閻浮提¹⁷
18
閻浮提¹⁹
閻浮提阿周那此云歲樹也。南閻浮提此樹表名也。此樹未直上四十由旬。高四千
20

21 舊
22 「圓」ノ上ニ「身」アリ。

23 ナシ

24 「里」ノ下ニ「也」アリ。

* 以上第十一紙

25 ナシ
26 「明」ノ下ニ「相」アリ。

里。毗婆尸佛。父名般頭摩多。母名槃摩底。子名方膺。²¹ 城名槃頭摩多也。²² 圓光百二十由旬。壽命八萬歲也。第二尸棄佛。亦成佛。亦是刹利王種。性憍陳如。身長一千六百八十

里。²⁴ 身色亦紫金磨黃金色。通身光一百由旬。壽命七萬歲。²⁵ 尸棄佛父名明。母名光曜。子名

無量也。第三毗婆舍佛。亦云婢怒婆附佛。亦是刹種。性憍陳如。身長一千二百八十里。圓

光四十由旬。通通身光六十二由旬。壽命六萬歲也。毗婆娑云。²⁷ 佛父名善澄。母名稱或。子名沙覺。城名無喻。第四拘樓孫佛。亦名迦羅鳩³⁰ 浪駄佛。此佛是婆羅門種。此云淨行。性迦

葉。²⁹ 身長一千里。圓光三十二由旬。通身光五十由旬。壽命四萬歲也。³⁰ 毗婆沙第四十六云。³¹

33 「六」ノ下ニ「卷」アリ。
32 ナシ
31 ナシ
30 村
29 妙
28 証
27 「佛」ノ上ニ「此」アリ。

34 他
34 多聞弟子名散奢婆孫。佛父名禮德。母名善枝。子名上勝。城名安和也。第五拘那含牟尼

1 ナシ
2 「多」ノ上ニ「有」アリ。
3 「聞」ノ下ニ「十」アリ。
4 壽
5 「性為名也」ナシ
6 ナシ

佛。亦是婆羅門種。性迦葉。身長八百里。圓光一千二百里。通身光一千六百里。壽命三萬歲。² 多聞弟子名蘇垣。佛父名女德。母善勝。子名導師。城名清淨也。第六迦葉佛。此云龜。亦是波羅門種。性迦葉。性為名也。身長十六丈。壽命二萬歲。亦云三萬年也。⁶ 大經

之。此人在世。由能說法行化。純風猶在世。盛行佛法也。此是諸法師說意也。釋迦父名淨

³³「飯」ノ下ニ「王」アリ。

³⁴「經」ノ下ニ「中」アリ。

³⁵「毗」ノ上ニ「說」アリ。

³⁶「迦」ノ下ニ「佛」アリ。

³⁷「言」ヲ「云」ニ作ル。

³⁸「獨」ナシ

³⁹「成道」ナシ

⁴⁰「多聞弟子等如居士經說也。毗婆尸佛至釋迦。初生之時。皆行步舉手。而言三界皆苦。天上天下唯我爲尊。又皆遊四方。觀見老病死。沙門學道成道。皆趣鹿野苑。轉四諦法輪。諸師說如此也。又七佛並是上金色也。觀佛

³⁸死。沙門學道成道⁴¹。皆趣鹿野苑。轉四諦法輪。諸師說如此也⁴²。又七佛並是上金色也。觀佛³⁹。初生之時。皆行步舉手。而言三界皆苦。天上天下唯我爲尊⁴⁰。又皆遊四方。觀見老病死。沙門學道成道⁴¹。皆趣鹿野苑。轉四諦法輪。諸師說如此也⁴²。又七佛並是上金色也。觀佛³⁹。

三昧經第八卷云。彌勒身長千尺。若如成佛經云。身長十六丈。圓光百由旬。壽命八萬四千

⁴³「紙」ナシ

⁴⁴「摩」ナシ

⁴⁵「提」ナシ

*以上第十三紙

1「脇」ノ下ニ「得」アリ。

2「ナシ

3「國」ノ下ニ「為」アリ。

4「國是」

5「若……名者」ノ十一字ナシ。諸本モ欠ク。

6「初」ノ下ニ「成」アリ。

7「後」ノ下ニ「成」アリ。

8「善」

9「後」ノ下ニ「成」アリ。

10「ナシ」

11「初」ノ下ニ「成」アリ。

12「後」ノ下ニ「成」アリ。

我壽百歲。彌勒八萬四千歲。我國是土。汝國是金。我國苦。汝土樂也。尋彌勒是賢劫第五佛也。若三大劫三千次第出名者。過去名莊嚴劫有千佛。最初佛名花光佛。最後佛名毗舍婆佛也。若三大劫三千次第出名者。過去名莊嚴劫有千佛。最初佛名花光佛。最後佛名毗舍婆佛也。若三大劫三千次第出名者。過去名莊嚴劫有千佛。最初佛名拘樓孫佛。最後佛名樓至如來也。未來名星宿劫有千

佛。最初佛名曰光佛。亦名淨光稱王佛。最後佛名須彌相如來也。若依稱揚諸佛三千佛經

¹³「12

如來也。現在賢劫有千佛。最初成佛名拘樓孫佛。最後佛名樓至如來也。未來名星宿劫有千

¹⁴「11

佛。最初佛名曰光佛。亦名淨光稱王佛。最後佛名須彌相如來也。若依稱揚諸佛三千佛經

14「莊嚴劫」ナシ

15ナシ

16「佛」ノ下ニ「也」アリ。

17「如來」ナシ

18名

19ナシ

20也

21ナシ

22「佛」ノ下ニ「中」アリ。

23ナシ

24「徳」ノ下ニ「王」アリ。

25「問」以下三百六十一字ナシ。諸本モ共ニ欠ク。

云。過去莊嚴劫千佛中。最初佛名人中尊佛。次佛名師子步佛。最後佛名金剛王佛¹⁵。賢劫千¹⁶佛中。最初佛名拘那提如來¹⁷。次佛伽那含牟尼佛。最後佛名樓至佛¹⁸。未來星宿劫中千佛²¹。最²²佛中。最初佛名王中王佛²³。最後佛名曰輪場尊上德佛也²⁴。問。諸論師等。依釋論第九卷云。於九十一

劫中。最初劫佛名毗婆尸佛。第三十劫中佛名尸棄佛。第九十劫中佛名毗舍婆佛。此三佛是過去莊嚴劫中佛。從拘樓秦佛以來佛是賢劫中千佛。此事定爾示。答。此意未必定爾。何者。九十劫中三佛。云何是過去千佛。限劫數過去云九十劫。非但三佛耶。若言中小劫。亦不番有三佛。釋論意。小乘明我。不論十方佛。故優婆塞戒經云。小乘宗不明十方佛等。直明佛出世化衆生。難遇難見。未明三千佛出事。若大乘明宗。三大劫中出三千次第出世。如前既釋也。又七佛出世有二義。一明大小佛出有七佛。如大論第九卷所明。三千佛出世。亦如前經所釋也。故經論云。九十一劫中第九十一劫中賢劫有十佛。第二一大劫例別之。小乘

*以上第十四紙

意。樓至滅後六十二劫中無有佛空過。第六十三劫中一佛出世。名淨光稱王佛。十小劫方乃

滅後過後三百劫。無有佛出世空過也。一爲傳云大乘意大異也。如小乘但第一四天下生。大

乘言百億第四天下生等也。故百億補處彌勒也。三千大千亦是大乘言也。

第五明出世時節久近¹

1 遠

2
ナ
シ

3 ナシ 4 「促止」ヲ「従正」ニ作ル。

5
年

劫初人壽命數不同。或云千萬億歲²也。或云四萬歲³也。或云八萬四千歲也。漸漸轉減促。止於百年乃至十歲。雜心亦同也。故樓炭經云。人壽命至十歲時⁵。有三小劫起。一者刀劍劫。

76
ナシ

6ナシ
7咲
8教
9「一」ノ下ニ「雪」アリ。

9 「一」ノ下ニ
10 ナシ

12岸

13「見」ノ下ニ「值遇」アリ。

15年 * 以上 14害

16「点之」ヲ「賢」ニ作ル。
15年

17
ナシ

慧均撰『弥勒上下經遊意』の出現をめぐって（伊藤

果¹⁸。相殺七日便止。又經云。十日方止。時人死者。皆墮泥梨中也。相殺既止。智者乃出。

19 知草年約20
21 22ナシ
22ナシ
23年
24「萬」ノ下ニ「三萬」アリ。
25「萬」ノ下ニ「六萬」アリ。
26「壽」ノ下ニ「命」アリ。
27喪
28是
29「飢」ノ上ニ「二者」アリ。
30ナシ
31「多」ノ下ニ「作」アリ。
32「水旱」ヲ「于時天旱」ニ作ル。
33糲
34糠
35穀
36「落葉」ヲ「葉落」ニ作ル。
37自
38「枇杷」ヲ「棟葉」ニ作ル。
39則
40「之転」ナシ
41処
42捨
43「飢」ノ下ニ「餓」アリ。
44是
45「疾」ノ上ニ「三者」アリ。
46ナシ
47ナシ
48殖
49ナシ
50「撻打」ナシ
51墮
52ナシ

23年
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

壽命四十歲²³。稍稍增至八十。乃至百千一萬二萬四萬歲²⁴。既約相戒。並爲善行。其壽命稍稍增長。如是久久天下人民皆壽八萬四千歲。然後當有佛出名彌勒。天地興襄其相如此²⁵。是爲

刀兵劫也。飢餓劫者²⁹。人多非法。愚痴邪見。慳貪嫉妬。守財不施。水旱不節。田種無收。

米穀轉盡。食粒驚責。掃擇粃粒³⁵。街巷落葉³⁶。以目連命³⁷。粃葉既盡。穿鑿地下。食草不根。

在先而死捨剔死人復共食噉³⁹。噉之轉飢渴。於屠殺之更⁴¹。乃至塚間。拾諸骸骨。煮汁飲之。

以此自活。飢死盡者。生餓鬼中⁴³。名爲飢餓劫也。疾病劫者⁴⁵。人皆正見。修行十善。終不生

三劫中也⁴⁷。但人無福德。值惡時惡人故。疾病衆多。又無有他方。計少有醫藥。雖行衆善。

不能攘劫。遇病輒死。生平在侵撓撻打杖捶。既其心亂故。臨死時接其精神。直落三惡道中。

受無量苦也。故經云。一日一夜持不殺戒。終不生刀兵劫疾病劫中也。又云。若以呵梨勒菓

53 病

54 「中」ノ下ニ「也」アリ。

55 「劫」ノ下ニ「中」アリ。

*以上第十六紙

56 ナシ

57 病

58 「波惟」ヲ「彼唯」ニ作ル。

59 劣

60 ナシ

61 「渴之」ナシ

62 「撰」ノ下ニ「之」アリ。

63 ナシ

64 「劫」ノ下ニ「也」アリ。

施僧。終不生疾疫劫⁵³中。若一食施僧。終不生飢饉劫。此閻浮提惡劫互起。餘方則少此間刀兵劫起。波唯重嗔。此間疾疫劫起。波惟氣力羸者。此間飢饉劫起。波但小小渴之耳。此三劫事。出長阿含經。三法度經。花嚴經。及大論與雜心論等撰也。經云。三劫者。時序改變惡時爲小劫。非是四十里方石等小中大三劫。⁵⁷

第六辨成道

*原本ハ改行ナシ。

*次明……佛成道ノ十二字ハ行間書キナリ。

アルイハ「イ本」カ。

1 「舍婆」ヲ「婆舍」ニ作ル。
2 「博洛」ヲ「村落」ニ作ル。

佛。坐婆羅樹下成道也。第二尸棄佛。坐分陀利樹下成道也。第三毗舍婆佛。坐博洛刃樹下成道也。第四拘樓孫佛。坐尸利沙樹下成道也。第五拘那含牟尼佛。坐優曇婆羅門樹下成道

也。第六迦葉如來。坐拘律樹下成道也。第七釋迦牟尼佛。坐貝多樹下坐成道也。又十住毗多ノ下ニ「羅」アリ。

7 次弥勒成道
8 「坐成道」ナシ

9 更
10 「成」ノ下ニ「佛」アリ。

11 「成」ノ下ニ「佛」アリ。
12 「理成」ヲ「真成佛」ニ作ル。

迹成也。¹¹ 言理成者。從凡夫修行。乃至登十地。未有常住窮學。¹² 後心始有圓明。¹³ 斯則本無今¹⁴

14 ナシ
15 「成」ノ下ニ「佛」アリ。

有。故言理真成也。¹⁵ 言應迹成者。如彌勒大士。卽出家日。坐龍華樹下。成等正覺。故言應

16 「成」ノ下ニ「佛」アリ。
17 ナシ

迹成也。¹⁶ 惣談因果不出二種。一實行修因得實行之果。¹⁷ 卽是凡夫依怖修行無所得。乃至十

19 「果」 ノ下ニ
「也」 アリ。

地。此等並是實行之因。¹⁸金心後佛果起時。此是實行之果。¹⁹二迹中行因得應身之果。如釋迦

* 以上第十七紙
21 「十」ノ下ニ「得」アリ。

六年苦行。此即是迹中修因。²¹三十成道。此意應身之果。今彌勒成道迹因應果也。

第七明三會度人多少不同

依觀佛三昧經明之。¹七佛三會度人不同。第一毗婆尸佛三會說法。初會時度十六萬八千人。

2ナシ
3「ソク」ノ下ニ「認証」アリ

第二會時度十萬人。第三會時度八萬人也。第二戶棄佛亦三會度人。²初會時度十萬人。³第二

4 「舍婆」ヲ「婆舍」ニ作ル

會時度八萬人。第三會時七萬人也。第三毗舍婆佛二會說法度人。⁴初會時度七萬人。第二會

「金」へ下り「銀」アリ。

時度六萬人也。第四拘樓孫佛。⁵一會度四萬人也。第五拘那含牟尼佛。亦一會說法度三萬人。

*「第六……人也」ノ十六字諸本欠ク。

也。第六迦葉佛。亦是一會說法度二萬人也。第七釋迦牟尼佛。亦一會說法度一千三百五十

6 「人」ノ下ニ「也」アリ。

7 ナシ

8 ナシ

9 ナン

10 「會時」ナシ

11 長者

12 ナシ

13 也

14 「十」ノ下ニ「人」アリ。

人。並是善來得成人也。諸法師云。此觀佛三昧經。未知何時會時度千二百五十人。初度提¹⁰

謂波利人等。不見多人。爲五人說法。只見拘隣等五人。若合諸天明之。經自云八萬諸天悟¹¹

道。故難解之。又非是一會度人也。但是一坐異聞悟道。名一千二百五十也。又云。優樓頻¹²

螺迦葉等三兄弟等爲一千。舍利弗目連二人眷屬爲二百五十人。又云。身子弟弟等六百五十¹³

15 ナシ

16 「十」ノ下ニ「人」アリ。

17 偏

18 ナシ

19 「或一會」ナシ

20 「如」ノ下ニ「菩薩處」アリ。

*以上第十八紙

21 「不」ノ上ニ「亦」アリ。

22 茲

23 「六」ノ下ニ「億」アリ。

24 「四」ノ下ニ「億」アリ。

25 「二」ノ下ニ「億」アリ。

26 ナシ

27 「三歸」ヲ「我戒」ニ作ル。

28 又

29 得

30 ナシ

31 「度」ノ下ニ「人也」アリ。

32 「大本經亦」ヲ「本業經」ニ作ル。

33 所

34 得

35 「又」ノ下ニ「處」アリ。

36 ナシ

37 ナシ

人。目連有六百人。合一千二百五十也。釋迦一會說法者。¹⁵備就於鹿野苑中。爲說四諦法輪¹⁶。明之也。此七佛中三會或二會或一會不同也。¹⁹第八彌勒佛。三會說法度人多少不同。²⁰如胎²¹經。釋迦語彌勒偈言。汝生快樂國。²¹不如我累苦。汝說法其易。²²我說法甚難。初說九十六。²³

二說九十四。三說九十二。我初說十二。二說二十四。三說三十六。汝所三說人。是吾先所²⁴

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

化九十六億人。受我五戒者。²⁶九十四億人。受持三歸者九十二億人。一稱南無佛。汝父梵摩²⁸淨。將八萬四千。非我先所化。是汝所開度。³¹報恩經與大本經亦云。三種人是釋迦先化人。³³同此經說也。又胎經第三卷法住品云。佛告彌勒。我今緣盡。無教化處。今所化衆生。分作³⁷

³⁸「一分」ナシ
39ナシ

三分。一分付阿難度。一分與難陀優鉢龍度之。餘一分付彌勒度脫之也。

*第八辨彌勒與釋迦同時涅槃不同

*原本ハ改行ナシ。
次モ同ジ。

*「時」ノ上ニ「先明釋迦涅槃先」アリ。
*「辛卯……八日」ノ四十字ハ行間書キナルモ
筆写ノ際ノ誤脱ナラン。

^{*1}時滅度。尋佛是周莊王十年夏四月八日辛卯夜。恒星不現時。即是佛生之日。佛是惠王八年四月八日出家。于時年十九。至惠王九年四月八日成道。于時年三十。至迂王五年二月十五

日滅度。于時年八十。佛自出世來。從周莊王至梁。合得一千二百四十年。具如大經遊意中

2「辨之」ヲ「說」ニ作ル。

3ナシ

4ナシ

5問

6當

7結

8七佛

9ナシ

10「離」ノ下ニ「復」アリ。

*以上第十九紙。原本ハ「於」ノ次ニ「第九簡

教大小乘」ノ文テアル「者三歸二者五戒……」

ニ接続サル。錯簡ナリ。今ハソレヲ訂ス。紙
數テ言ハバ正シクハ、第二十二・二十・三十
一ノ順序ナリ。

而佛言。世尊往昔於毗尼中及前後諸經。說阿逸多常作佛。此人具足凡夫。未斷諸漏。其人今者雖復出家。不修禪定不斷煩惱。佛說此人成佛無疑。此人命終生何國。佛答言。此人從今去十二年中命終。必得往生兜率天上。仍爲諸天子廣說法也。優波離又問。今此大士。何時於閻浮提生彼天。佛答云。¹³却後十二年二月十五日。於波羅捺國劫波利村。大波羅門問家¹⁴。大波羅門問家¹⁵。時於閻浮提生彼天。佛答云。¹²

11ナシ
12没生於
13ナシ
14却
15ナシ

17「時」ノ下ニ「恒」アリ。
18「下」ノ下ニ「至」アリ。
19ナシ

本所生處。結跏趺坐如入滅盡定。而取滅度時。諸人起衆寶塔。供養舍利。於兜率陀天七寶臺內摩尼殿上師子床上。忽然化生。於蓮華上結跏趺坐。身如闍浮檀金色。長十六由旬。有三十二相八十種好。晝夜六時說法度諸天子。五十六億七千萬歲。爾乃下來生此作佛也。言不修禪定不斷煩惱者。舊諸師云。此觀經同初教法輪。亦如釋迦。以凡夫身六年苦行。方得

20諸
21ナシ
22「中」
23ナシ
24之
25ナシ

作佛爲例也。今謂。既應現爲發心位。故上生經中六度四等菩薩行。²⁰ 卽不退轉行。²¹ 卽具論中

假者。可言不修禪定不斷煩惱耶。但優婆離執小乘意聞耳。²² 半教之宗。眞凡夫身成佛。都不

26身
27ナシ
28生
29天

論前名證聖與成佛。故作如此問。自今大乘具足論本迹故。佛答直明上天兜率生依正報事。²⁵

30ナシ
31初

都不明不斷煩惱等事也。故大品經云。入法位人得被授記。又十住斷經云。彌勒久已成佛。²⁶

32惑

爲慈悲本願故。現身成佛。大品經夢行品云。彌勒久行六波羅蜜。無所得故。又如大品經第

八卷云。昔於花嚴城內。見燃燈佛。卽得不雖六波羅蜜行。若爾豈得言不修禪定不斷煩惱

耶。大經第三十四卷云。發心畢竟二不別。如是二心先心難。自未得度先度他。是故我禮初

33「縁覺」ヲ「辟支」ニ作ル。
34ナシ

*以上第二十一紙

35「八」ノ下ニ「卷」アリ。

36「中」ノ下ニ「生」アリ。
37族

嚴經第四十七四十八云。³⁵ 彌勒菩薩語善財云。我於閻浮提南界摩離國內拘提聚落婆羅門種性中。爲欲滅彼憍慢心故。化度父母及親屬故。於中受生。於此命終。生兜率天。化度彼故。³⁷

*蟲食ニテ不明。諸本ハ「謂」ナリ。
38「殊」ノ下ニ「師利」アリ。

40「薩」ノ下ニ「之」アリ。

41「如」ノ下ニ「此」アリ。

39修菩薩
40菩薩行學道。何以。文殊師利。常爲諸佛之母。常爲諸菩薩師也。若爾諸經分明如說者。可

42ナシ

言不修定不煩惱耶。但諸論師等義宗。發心之位最下。假名空前爲發心位。即是眞凡夫位中安。⁴³ 故作如此判耳。今明發心位。具中假明之故卽高也。又尋檢衆經。釋迦與彌勒滅度時節

4445ナシ
4645ナシ
4443ナシ
42ナシ

釋不同。一者地攝成毗諸家云。彌勒於人中。入般涅槃。應是釋迦前滅度。⁴⁶ 何以得知。說法

4748ナシ
49名
50「無」ノ下ニ「者」アリ。
51「薩」ノ下ニ「者」アリ。

華經時。猶有彌勒。若至雙林法席。不復見列彌勒名。說法花在前年之末。說涅槃是今歲之

初。⁴⁹ 若彌勒在佛後生天者。便應在涅槃法席。而今無。⁵⁰ 當如必是佛前入涅槃也。二云。大經

52王
53ナシ
51「薩」
52王
53ナシ

云。弘廣菩薩通論諸菩薩。若爾彌類在弘廣菩薩限中。無有一菩薩名弘廣故也。

三今謂則不

³⁴*

54「後」ノ下ニ「阿難文殊師利彌勒三人結集大乘藏故知佛滅度後」アリ。

55「爾」ノ下ニ「者」アリ。

56ナシ
二

1「乗」ノ下ニ「者」アリ。

*原本ハ改行ナシ。

2「一」ノ下ニ「者」アリ。

3「二」ノ下ニ「者」アリ。

*以上原本テハ第二十二紙ノ終り。「者」以下

ガ第二十紙ニ当ル。

4傍注「三者」ノ二字「イ本不明」トス。

5「二」ノ下ニ「者」アリ。

6「嚴」ノ下ニ「教」アリ。

7「方」ノ下ニ「便」アリ。

歸。二者五戒。三者十善也。三者出世教。

亦有三種。一頓教。爲利根大行人說。如華嚴大

集等經是也。二者偏方教。爲中根之人說。如夫人經及金光明等經是也。三者階漸次第教。

此爲下根人說經。卽五時四時經教是也。談此經。於二經中是出世教。而三教中師解不同。

一云。是偏方教¹⁶。明未來因果成佛。淨土因果之事¹⁷。依正二果事事釋畢。具如經文所說也。

二云。此是次第教。五時教中此是初教。次補釋迦並論一生成佛事。亦是小乘。指授記事。

如本末經中說也。又此經既從阿含經中出。阿含是三藏教。此經理自是小乘教。若如大彌勒

經別時說。未必是阿含中出也。又一云。是大乘教。故中阿含經復釋是大乘。卽此經文中。

19具

20ナシ

21
ナシ22
ナシ

有常樂等語。今謂不然。汝既言阿含經復是大乘等者。非正宗。傍明大乘也。故今謂。上生²¹

23
ナシ

經是正²³是大乘教。故經文多具明六度四等菩薩行。菩提心無上道等也。亦具論中假故大乘因

果。第三段明宗中說。下生經是小乘爲宗。故三說文唯證四果而已也。問。若爾經文何意證

常樂等四德耶。答。尋常樂等語。亦漫如小乘滅度無爲中。亦義說常樂等。大乘妙有亦得明

24
悟
25
「樂等」ヲ「說常」ニ作ル。

常樂。假令屬大乘。可例如波若教。已上一例。或可是對臺懷無常樂等事。何必是破三修比²⁴
²⁵

26
我淨

丘說常樂義也。²⁶

第十明雜料簡

*原本ハ改行ナシ。

*「五」マテ第二十紙。「事」以下第二十三紙。

1「經」ノ下ニ「云」アリ。

2「事」ノ下ニ「所以小大」アリ。

3ナシ

4「觀」ノ下ニ「世」アリ。

5優
6「彼波沙」「婆婆娑」ニ作ル。

既有五事本無。如觀音經不安五事。大本成佛經安五事。佛住在摩伽陀國。遊彼波沙山。此問。此經既是大乘經。何故不安五事。答。傳云。既從大成佛經出。故略爾不安五事。大經¹

翻云孤絕山。過去諸佛常降魔處。夏安居中。與舍利弗共經行。山頂而說經也。問。此經

8名

9「淨」ノ下ニ「穢」アリ。

10
ナシ

宗。淨土因果爲宗。是何物淨土。答。此國土穢土中淨土。非是如無量壽淨土等。何以知之

12 語
11 ナシ

者。大論云。地居故非諸天。無欲故非欲界。賢愚經云。彌勒出世時。五百歲行嫁有婦女等。

13 ナシ
14 未

15 「來近」ヲ「不久」ニ作ル。

16 「道」ノ下ニ「也」アリ。

17 ナシ
18 「佛」ノ下ニ「耶」アリ。
19 「答」ノ下ニ「釋迦」アリ。
20 「佛」ノ下ニ「也」アリ。

21 得
22 耶
23 「今」ノ上ニ「答」アリ。

24 ナシ
25 也
26 王種
27 種
28 ナシ

寧得是好淨土也。問。釋迦何故十九出家三十成道。彌勒何以且趣出家初夜成道耶。答。舊云。彌勒發心來久故。所以少時成道。釋迦發心來近故。所以久時成道。問。釋迦發心來近

¹⁴

¹⁵

¹⁶

¹⁷

¹⁸

¹⁹

²⁰

²¹

²²

²³

²⁴

²⁵

²⁶

²⁷

²⁸

²⁹

³⁰

³¹

³²

故。不卽成佛者。發心來近故。在後成佛。何意前佛成佛。答。精進苦行故前成佛。問。精進苦行故前成佛者。精進苦行故。卽日出家成佛。不應久久成佛也。今謂。未必然。終是隨緣機宜方便。久近不同示耳。問。釋迦何故託生刹利性。彌勒何以託生波羅門性。答。釋迦

所化衆生。剛強難化故。所以託生貴性化衆生也。彌勒所化衆生。柔軟易化故。所以託生婆羅門性。故菩薩處胎經云。汝說法甚易。我說法甚難也。釋論云。諸佛八相成道。一上天。

迦葉。九滅度也。瑞應經云。乘白傷入胎。雖處胞胎如遊天宮也。花嚴經廣說入胎事。殊絕

不可思議也。彌勒佛出世時。生一種七獲。米長七寸。白如珂玉。甘甜如蜜。如劫米四寸。29 天入

30 「入」ノ下ニ「胞」アリ。
31 身
32 「劫」ノ下ニ「初」アリ。

也。衣服等從樹生。自然而有。同如北鬱單國也。³³ 又明珠柱長。小本云。³⁴ 高十里光照八由旬。³⁵

³⁶ 常

³³ ナシ
「國也」^{ナシ}

³⁵ ナシ
³⁶ 常
³⁷ 「二里」^{ナシ}

是三千³⁷ 二里也。又云明珠柱。一云用珠莊嚴柱故。言明珠也。二云柱是明珠作。如金作柱也。

*「長……愚經云人」ノ二十三字諸本ナシ。
身³⁸
歎³⁹
ノ下ニ「屍」アリ。

鉢⁴⁰
承⁴¹
為⁴²

骨⁴³
ノ下ニ「觀」アリ。
賢⁴⁵
1ナシ
2得
3「二」ノ下ニ「者」アリ。
4「二」ノ下ニ「者」アリ。
5「三」ノ下ニ「者」アリ。
6「四」ノ下ニ「者」アリ。

不朽壞。猶如骨堅。⁴⁵ 故言骨身也。今謂應如後解。阿含經云。佛聲聞弟子有四人。至今猶未入涅槃。待佛法滅盡時。方入無餘。³ 一摩訶迦葉。二賓頭盧上坐。⁴ 三君頭拔嘆。四羅睺羅。

比丘若爾迦葉入滅盡定中。入無餘耶。彌勒成佛已領大衆。往至迦葉所。用三種法。發起迦葉。三種法者。一香油灌。⁸ 二打撻槌。三吹螺。于時迦葉從滅定起。破衆生心故。作十八變。如金翅鳥飛騰虛空須彌山。放金色光明。破伏彼衆生心也。問。三種事從滅定起者。如阿難入第二禪。摩王打阿難頂。尚不出定。云何三事出滅定耶。答。迦葉昔有要期。於彌勒

灌⁸
ナシ

出時當出定故應起。須假三方便得發起也。¹¹問。往奢闍崛山。復言狼迹山。何意耶。答。狼

跡¹²。14「崛」ノ上ニ「是」アリ。

15ナシ

16ナシ

17ナシ

18ナシ

19ナシ

20ナシ

21ナシ

22ナシ

23ナシ

24ナシ

25ナシ

26ナシ

27ナシ

28ナシ

29ナシ

30ナシ

31ナシ

32ナシ

33ナシ

34ナシ

35ナシ

36ナシ

37ナシ

38ナシ

39ナシ

40ナシ

41ナシ

42ナシ

43ナシ

44ナシ

45ナシ

46ナシ

47ナシ

48ナシ

49ナシ

50ナシ

51ナシ

52ナシ

53ナシ

54ナシ

55ナシ

56ナシ

57ナシ

58ナシ

59ナシ

60ナシ

61ナシ

62ナシ

63ナシ

64ナシ

65ナシ

66ナシ

67ナシ

68ナシ

69ナシ

70ナシ

71ナシ

72ナシ

73ナシ

74ナシ

75ナシ

76ナシ

77ナシ

78ナシ

79ナシ

80ナシ

81ナシ

82ナシ

83ナシ

84ナシ

85ナシ

86ナシ

87ナシ

88ナシ

89ナシ

90ナシ

91ナシ

92ナシ

93ナシ

94ナシ

95ナシ

96ナシ

97ナシ

98ナシ

99ナシ

100ナシ

101ナシ

102ナシ

103ナシ

104ナシ

105ナシ

106ナシ

107ナシ

108ナシ

109ナシ

110ナシ

111ナシ

112ナシ

113ナシ

114ナシ

115ナシ

116ナシ

117ナシ

118ナシ

119ナシ

120ナシ

121ナシ

122ナシ

123ナシ

124ナシ

125ナシ

126ナシ

127ナシ

128ナシ

129ナシ

130ナシ

131ナシ

132ナシ

133ナシ

134ナシ

135ナシ

136ナシ

137ナシ

138ナシ

139ナシ

140ナシ

141ナシ

142ナシ

143ナシ

144ナシ

145ナシ

146ナシ

147ナシ

148ナシ

149ナシ

150ナシ

151ナシ

152ナシ

153ナシ

154ナシ

155ナシ

156ナシ

157ナシ

158ナシ

159ナシ

160ナシ

161ナシ

162ナシ

163ナシ

164ナシ

165ナシ

166ナシ

167ナシ

168ナシ

169ナシ

170ナシ

171ナシ

172ナシ

173ナシ

174ナシ

175ナシ

176ナシ

177ナシ

178ナシ

179ナシ

180ナシ

181ナシ

182ナシ

183ナシ

184ナシ

185ナシ

186ナシ

187ナシ

188ナシ

189ナシ

190ナシ

191ナシ

192ナシ

193ナシ

194ナシ

195ナシ

196ナシ

197ナシ

198ナシ

199ナシ

200ナシ

201ナシ

202ナシ

203ナシ

204ナシ

205ナシ

206ナシ

207ナシ

208ナシ

209ナシ

210ナシ

211ナシ

212ナシ

213ナシ

214ナシ

215ナシ

216ナシ

217ナシ

218ナシ

219ナシ

220ナシ

221ナシ

222ナシ

223ナシ

224ナシ

225ナシ

226ナシ

227ナシ

228ナシ

229ナシ

230ナシ

231ナシ

232ナシ

233ナシ

234ナシ

235ナシ

236ナシ

237ナシ

238ナシ

239ナシ

240ナシ

241ナシ

242ナシ

243ナシ

244ナシ

245ナシ

246ナシ

247ナシ

248ナシ

249ナシ

250ナシ

251ナシ

252ナシ

253ナシ

254ナシ

255ナシ

256ナシ

257ナシ

258ナシ

259ナシ

260ナシ

261ナシ

262ナシ

263ナシ

264ナシ

265ナシ

266ナシ

267ナシ

268ナシ

269ナシ

270ナシ

271ナシ

272ナシ

273ナシ

274ナシ

275ナシ

276ナシ

277ナシ

278ナシ

279ナシ

280ナシ

281ナシ

282ナシ

283ナシ

284ナシ

285ナシ

286ナシ

287ナシ

288ナシ

289ナシ

290ナシ

291ナシ

292ナシ

293ナシ

294ナシ

295ナシ

296ナシ

297ナシ

298ナシ

299ナシ

300ナシ

301ナシ

302ナシ

303ナシ

304ナシ

305ナシ

306ナシ

307ナシ

308ナシ

309ナシ

310ナシ

311ナシ

312ナシ

313ナシ

314ナシ

315ナシ</

38
ナシ39
「等」
ノ下ニ「亦」アリ。40
「來」
ノ下ニ「世」アリ。41
「當」
ノ下ニ「得」アリ。42
云43
「心」
ノ下ニ「者」アリ。44
「通」
ノ下ニ「中」アリ。45
王46
ナシ

應作。魔壞佛法。亦有壞佛義。或如舉本長存廢滅。迹身等壞佛義。而今言成佛者。此是據始標勝。故言成佛也。問。授記有通別不。答。有之。若記言汝未來當作佛。如大經言。⁴² 凡

³⁸
43
有心皆當作佛。如是道理通記。又如生法師所記。一闡提成佛等通記也。別記。曾其國土壽⁴⁴⁴⁵
命等此是迹中別。如今經等爲別記也。問。佛身形量應長云何。答。經說不同。成佛經觀佛1「身」ノ上ニ「釋迦佛」アリ。
2「釋迦佛」ナシ。
3「十時時」ヲ「肘」ニ作ル。
*以上第二十五紙

三昧經云。身長釋迦佛八十時。¹ 時二尺。即是十六丈。又云一肘四尺。若爾則三十二丈。² 下生經云。身長千尺。即是百丈。一倍過人五十丈也。背廣三十丈。³ 面身二丈四尺。身與面手

4長

掌舊格十分之一。背與身五分之一。如即是身長八尺。面與掌並八寸。胸廣六尺。釋迦身長

5舊
6ナシ

丈六。面掌並一尺六寸。胸廣三尺。此得相稱。然彌勒身百丈。面長丈四尺。諸法師云。恐

7「丈四」ヲ「四丈」ニ作ル。
8然

相傳經者。悞可惑處所生。人形不同。如此聞人鼻短。而胡人鼻則長。何如是悞也。觀佛三昧經云。諸佛出世。無不黃金色。又下生經云。彌勒應生。亦作黃金色也。又彌勒未來成佛

9ナシ
10「人……下生」ノ三十九字ナシ。11「數」
12ナシ
ノ下ニ「如」アリ。

歲數諸經不同。一如雙卷泥洹經云。一億四千餘歲。乃當有彌勒出世也。二如賢劫定意經云。

¹¹

13「下」ノ下ニ「生」アリ。

14「胎」ノ下ニ「經」アリ。
15ナシ

16ナシ
17「滅」ノ下ニ「度」アリ。

彌勒五億七十六萬歳下作佛。三如觀經與一切智光仙人經同云。五十六億萬歳而下作佛。四

¹³

菩薩處胎與賢愚經。及賢劫經同云。五十六億七千萬歳方下作佛也。又彌勒云。釋迦滅後。

18七
如閻浮提日月數。凡五十六億十千萬歳方出世也。問。補處菩薩。何意必生第四天中。不生

19「涅槃」ヲ「大」ニ作ル。
19
下天與上天耶。答。補處菩薩。必生第四天者。大論與涅槃經具說之。大經第三十卷云。下

20結
天中其心闇鈍。在上天者。其心放逸。唯第四天最勝故。必生彼天也。大論云。下天經使厚

21渴
濁。上天結便利。唯兜率天不厚不利智慧安穩。又下地壽命短促。命終時佛未出世。機不合

22「命」ノ下ニ「處中合」アリ。
22
故。上天等壽命長遠。未盡時佛出世時過去。復機過度。故第四天時壽命機時故。必生此天

23「嚴」ノ下ニ「經」
*以上第二十六紙
24也
中也。如長阿含經與花嚴²³。大經。樓炭經。俱舍論。立世毗曇等。意合雜取明耳。問。六欲

25身
26「王四身」ヲ「四王身長」ニ作ル。
25
天諸事同人間不。答。有同有不同者。王四身皆半由旬。衣長一由旬。其重三分。天壽五百

歲。大而明之。以人間五十歲。天中一日一夜。亦以三十日一月。十二月一歲。彼五百年卽

27ナシ
28「天」ノ下ニ「嫁」アリ。
29「女嫁」ナシ。
人間九萬歲也。若食淨揣食。洗浴衣服。爲細滑食。男天娶女嫁。身行陰陽。一一同人間。

30 「善根」ヲ「菩提」ニ作ル。
31 令
32 「在」ノ上ニ「若」アリ。

33 「兩歲兒」ヲ「二年子」ニ作ル。

34 「云」ノ下ニ「男生坐父天勝上如生坐母天勝
上而既有男女天天何容男天勝上坐若爾則」ア
リ。

35 男無分別男女二天也。又男女兩異者。一頭上花等多與君衣著故。分男女也。又兒生夫久便

³⁵

³¹

³²

³³

³⁴

³⁵

³¹

³²

³³

日四王當遣太子。安行天下。十五日四三日行歷諸世界。得善惡事。然後諸善法殿致具

啓。天帝釋。聞作惡則愛言善則樂。課偈歎勤受持齊戒人與我同行善法。具出長阿含與大

智論。樓炭經等也。餘三天大勢豈同意也。忉利天此云三十三天。此天居須彌山頂。有三

十三天宮。王名釋提桓因。此云能作天王。身長一由旬。衣長二由旬。廣二由旬。衣重六

銖。壽六千歲。若欲臨命時。有五相現。一衣垢膩。二頭上花委。三身體臭穢。四腋下汗

流。五不樂本坐。事現時心大愁。如地獄苦也。飢食嫁娶猶四天王也。身體相近抱。以氣

成陰陽。三法度經云。行欲如人間也。以身口意三業善根。生忉利天。自然化現。在天勝

上。如三歲兒也。天即恣言是我男我女。目識前世施特得身。若欲得欲食。理滿金器。福

有溶淺。食有差別。降如四天王天也。城縱廣八萬由旬。樓炭經云。廣長各三百萬也。其

七重九百九十門。門有六十表。青衣夜叉守之。三十三天。金城銀門。城金門。如是七寶

互爲城門。樓閣臺觀。周匝圍繞。園林浴地。寶華開雜樹行列。花果繁茂。香風四起。悅

者天心異類。寄青鳥無數和

*以下第二十八紙目。

從來ト料紙異ナル。

1「イ不明」トス。

2「イ不明」トス。

3「清澄」ノ二字「イ本不明」トス。

4「ナシ

5「ナシ

6「ナシ

7「ナシ

8「聞」ノ下ニ「一」アリ。

9一樹
10ナシ

11ナシ

12「炎摩天事」ナシ

13「摩」ノ下ニ「天」アリ。

14ナシ

15王
16命
17「成欲」ナシ
18「天」ノ下ニ「同」アリ。
19子
20「天」ノ下ニ「所」アリ。
21「兜率天事」ナシ
22イ本ハ「中」ノ下ニ一字アルモ蟲食ニテ不明
23「菩薩」ノ二字「イ本不明」トス。
24「旬」ノ下ニ「衣長八由旬」アリ。

鳴也。又園中有難陀池。縱廣百由旬。其水清澄。七重寶塹。生四禪花。青黃赤白。白紅縹雜色。香氣普薰。聞一由旬。相如車穀。汁白如乳。味甘如蜜。復有雜園。大歡喜園。中間

有樹名盡度。園七由旬。枝葉四布五十由旬。其香風逆聞百由旬。內有忉利殿。

南又有一樹名波利質多。⁹高四千里。枝葉分布二千里。風吹花香。逆風行聞二千里。當樹花

時諸共坐樹下。以爲歡喜。帝釋與三十二臣。故三十三天也。¹²炎摩天事。¹³炎摩梁云時。大智¹⁴

¹⁵論云。妙善天宮。風轉所持在虛空中。在名時善。身長二由旬。衣長四由旬。廣二由旬。衣

重三銖。從樹而生出。明淨光曜。有種種色。身體光明。不須日月。三業善根生。或施燈燭

明珠。等施持戒定等業。生此天。¹⁶壽天二千歲。飲食嫁娶成欲。如下天。法度經云。相抱成

欲也。初生之時。形如人間四年兒。⁹¹光明等下天不及也。兜率天事。兜率天此云知足天宮。

風轉所持。在虛空中。²²名善喜。後邊身菩薩生在此天。身長四由旬。²⁴廣四由旬。衣重一銖

23菩薩生在此天。身長四由旬。²⁴廣四由旬。衣重一銖

25 摺
 26 「其」
 27 「生」
 28 年子
 29 「如」
 30 台
 31 亦
 32 勝
 33 「化樂天事」ナシ
 34 壽
 35 多
 36 就
 37 ナシ
 38 情
 39 「生」
 40 間
 41 「歳時」ヲ「年子」ニ作ル。
 42 「勝」ノ下ニ「如」アリ。
 43 「天」ノ下ニ「同」アリ。
 44 「他化自在天事」ナシ
 45 「伝茶」ヲ「自在転集」ニ作ル。
 46 ナシ
 47 ナシ
 48 「愛身長」ヲ「受業」ニ作ル。
 49 ナシ
 50 三
 51 ナン
 52 ナシ
 53 ナシ
 54 「生」
 55 子
 56 「樂」
 57 ナシ

半。壽命四千歲。食同下天。亦有嫁娶。執手成欲。其天初生如人間五歲。²⁸ 如彌勒生。異餘天生故。彌勒上生經云。兜率陀天。七寶堂内。摩尼殿上。師子床坐。忽然化生也。故大經云。名色命三種。異餘天生也。³¹ 上自知前世。如下天事也。衣冠歌舞身光明。勝下天也。³² 化樂天事。化樂天宮。亦爲風輪所持。在虛空中。王名善。自化五欲。以自娛樂。身長八由旬。^{*}
 衣長十六由旬。廣八由旬。衣重一銖。壽八千歲。³⁴ 飲食等多下天同。亦有嫁娶。³⁵ 熟相者成欲。三法度經云。以深染汚心。與天女共語成欲。其天初生。³⁹ 如人中六歲兒。光明殊勝兜率⁴⁰ 天也。⁴¹ 他化自在天事。他化自在天宮。亦爲風輪所持。在虛空中。天王名傳茶他所化。以自娛樂也。⁴² 又名愛身長。⁴³ 於欲界中。獨得自在娛樂也。身長十六由旬。⁴⁵ 衣長三十二由旬。廣十⁵⁰ 六由旬。衣重半銖。壽命天萬六千歲。飲食如下天。亦有婚姻。相視成欲。樓炭經云。但念便成欲。三法度經云。共女各深染著相視成欲。若不染心不成欲。但樂而已。如人間相抱時³ 樂心也。彼天初生時。如人間七歲兒也。彼天見他人所化種種事。至至樂。言他化自在天⁷

8 「者事魔天」ナシ。
也。第七波旬魔天者事。魔天宮在欲色二天中間住也。魔者譬如石磨磨。破壞佛弟子功德也。

宮殿縱廣六千由旬。城塹七重寶一切莊嚴。猶如第六天也。又有十法。一飛去無限數。二飛來無限數。三去無礙。四來無礙。五天身無有皮膚骨體筋脈血肉。⁹ 六身無有不淨大小便利。¹⁰

¹¹ 12 「女」ノ下ニ「人」アリ。
13 立法
14 謂
15 謂
16 ナシ
17 ナシ
* 以上第二十九紙
18 「亦隨白色」ナシ

七身無疲極。八無有女故不產。¹² 九天目不眴。¹³ 十身隨意。好青色則青色。好黃色則黃色。好赤白等衆色。隨意而現之。此是彼天十法也。又有持十事特之。一飛行無極。二往還無極。

三無諸盜賊。四不相說自行善事。亦不說他人作惡。五無有相侵損。六諸天牙齒等通是一切¹⁶ 刀刃也。七髮紺青色滑澤甚長也。¹⁷ 八諸天等青色髮者。身亦隨青色。九欲得白色亦隨白色十

欲得黑色。身卽隨黑也。此七天諸事不同者。依長阿含。涅槃。樓炭。三法度。花嚴等。並

釋論中意。平有出入不同。今取料簡之也。問。釋迦出時與彌勒出世地水闊狹云何耶。答。
¹⁹
²⁰
²¹
²² 「出世」ヲ「佛」ニ作ル。

²³
²⁴ 24 23 有
22 21 20 更
21 人
19 ナシ

闊狹有異。彌勒時水減地增。今時人小。水廣地狹。後時人多。水減地增也。人卽福德人處處滿。受樂無爲相損之事也。水減者。彌勒出世時。四海四面各減三千由旬十二萬里也。是

26 25
ナシ 出

27「不」ノ上ニ「釋」アリ。

30 原本 29 減 28 ナシ
一字アルモ蟲食ニテ不明。「有
カ。イ

30 原本一ズアルモ蟲食ニテ不明減ナシ
31 「曰地」ヲ「越地廣」ニ作ル。本ハナシ。

時閻浮提水少而地濶。人物多也。釋迦處世。²⁵海廣而地狹。地七千由旬。今彌勒時。地廣十
千由旬。合四十萬里也。問。四城中但南閻浮提地水增減。餘三城地水二增減耶。答。²⁶不
同。一云但歲樹地增減。是佛出處。餘三處非佛出處。²⁷不增減也。二云四城處並增減也。²⁸今
四城處並增減也。²⁹又云。釋迦所化處。四減四惡趣六欲及中間四禪四無色無相五阿那含二十五有也。又云。

百億須彌山百億日月有故也。又諸法何依造天地。經云。須彌山王北30□欝單曰地。31此云最上

地。各廣長各三十六萬里。地形正四方。彼人面形遂地勢。³²故正四方猶如方鏡也。以福德故。³³

自然衣食。無有君臣。³⁵亦無有病矣。³⁶患等也。山東有佛于逮地。³⁷比云刃地。亦廣長絡三十六

自然衣食。無有君臣。³⁵亦無有病疾患等也。山東有弗于逮地。³⁶此云初月地。亦廣長各三十六

萬里。地形周匝圓如鏡。彼人面形遂地勢。³⁹ 圓如十五月也。⁴⁰ 山西有俱耶尼地。此云隱月地。⁴¹

亦云貨牛地。彼處用黃牛爲市易。故言貨牛也。¹廣長三十二萬里。²地形如半月。彼人面形遂³

*「海水」以下「其中也」

*「海水」以下「其中也」マデノ百四字ハ、筆写ノ際ノ底本ニハ欠ケティタ如クテ、原本ニテハ「処」ノ次ニ「弥勒出世時四城処海水……」トシテ、イ本ニヨリ補ツテイル。從ツテソノ前ノ「弥勒出時四城処」マデヲ「イ無」ト注ス。

慧均撰『弥勒上下經遊意』の出現をめぐって（伊藤）

處。地地則廣千三由旬。地地如鏡而平正同琉璃。地唯平如鏡嚴。而或是空地。故名花香樹

充滿莊嚴。或是名花香莊嚴。而未必城色銀舍人家故。又城色地次。鷄飛相及不相違也。雖

¹⁰傍注ニ「已上イ本在之」トスル。

¹¹ナシ

¹²「是」ノ下ニ「我聞等」アリ。

¹³「此」ノ下ニ「經」アリ。

¹⁴「出世」ナシ

¹⁵「二」ノ下ニ「者」アリ。

¹⁶ナシ

¹⁷訳出也

¹⁸「三」ノ下ニ「者」アリ。

¹⁹「中」ノ下ニ「出世」アリ。

²⁰「四」ノ下ニ「者」アリ。

²¹「五」ノ下ニ「者」アリ。

²²「復有彌勒」ナシ

²³ナシ

²⁴耶

²⁵「勒」ノ下ニ「經」アリ。

²⁶智

²⁷「色」ノ下ニ「而放白銀光明黃金校飾如白銀

答。略有五種。一大成佛經一卷十五紙。有如是五事。小成佛經傳云。從此出也。¹¹二有彌勒
本願經一卷。是竺法護以晉太安二年七月十七日出。¹²三彌勒觀經一卷。是僞安陽侯。以宋孝
¹³建中。¹⁴四彌勒問或經一卷。²¹五彌勒光身經一卷。²²復有彌勒口教經一卷。²³若爾合六經也。²⁴問。

白銀彌勒出何經耶。答。一切知光仙人慈心經云。彌勒金色也。問。兜率陀天名凡有幾名。

山唯有此又色有白銀色アリ。

²⁸「出」ノ下ニ「凡」アリ。

²⁹「陀」ノ下ニ「天」アリ。

³⁰「陀」ノ下ニ「天」アリ。

³¹「三」ノ下ニ「者」アリ。

³²「陀」ノ下ニ「天」アリ。

³³者「陀」ノ下ニ「天」アリ。

³⁴「陀」ノ下ニ「天」アリ。

³⁵者「足」ノ下ニ「天」アリ。

³⁶「多」ノ下ニ「天」アリ。

³⁷「足」ノ下ニ「天」アリ。

阿含三十卷云。兜率多。³⁶此五名同翻云知足。大論亦同也。

³⁷

³⁸「大東三論家弥勒經遊意卷一」トス。

諸本ハ共ニ「弥勒經遊意終」ト記ス。又、卷

末ウラニ「弥勒上生經遊意卷第一」トアリ。

*以上第三十一紙終
奥書ハ憲朝自筆ト認メラレル。本文ト料紙異ナル。

(奥書)

彌勒上下經遊意十重義 一卷³⁸

觀應三年八月二十三日。於山城國綴喜郡田邊鄉。令書寫了

同翌日。以東南院御經藏御本。令校合了

戴□本者彼御本也

*異力、蟲食不明。

兩本共文字脫落惟多。僻字又不知數。重尋證本可校定畢

三論宗沙門憲朝

抑此書者。嘉祥均正兩所之製作在之歟。而卽所持聖教中二所釋其次闕之。仍平來雖有書寫之志。御經藏本者虫□^(蟲食)之損失散失也。其外依不尋得寫本閱之了。今適得一本。令書寫之處。文字散失。彼御經藏本又虫□^(蟲食)也。彼此共願指南尤以無止矣。